

市民等との協働事業一覧

(平成27年度事業)

平成27年度市民等との協働事業一覧表

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
1	企画部	秘書広報課	広聴・国際交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	1			
2		秘書広報課	広聴・国際交流担当	姉妹都市提携50周年記念事業	3	○		
3		企画政策課	企画政策担当	男女平等情報紙発行事業	5			
4				ぷらっとカフェの協働開催	7	○		
5	生活安全部	防災課	防災係	青梅市防災講演会	9			
6		市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	11			
7				不動産鑑定士による無料相談会	13			
8				不動産無料相談会	15			
9				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	17			
10				青梅市市民のくらし展	19			
11	市民部	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	21			
12				新任職員向け協働研修	23			
13				お〜ちゃんフェスタ2015	25			
14				市民活動団体支援講座「仲間を増やせる!!市民活動の企画力・広報力アップ術」	27			
15				「おそきだより」の発行	29			
16			青梅市民センター	青梅市民センター運営協議会	31			
17				青梅市民センター文化祭	33			
18			長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	35			
19				長淵地区文化祭	37			
20			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	39			
21				文化展	41			
22				ふるさと地域散歩	43			
23			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	45			
24				梅郷市民センター文化祭	47			
25			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	49			
26				三田地区総合文化祭	51			
27			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	53			
28				小曾木地区文化祭	55			
29			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	57			
30				成木地区文化祭	59			
31				東京ヒルクライム(自転車競技)	61			
32			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	63			
33				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	65			
34				松竹梅の寄せ植え教室	67	○		
35			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	69			
36				新町末広地区市民文化祭	71			
37			河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	73			
38				河辺市民センター文化祭	75			
39			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	77			
40				今井市民センター文化展	79			
41			市民部	スポーツ推進課	スポーツ推進係	第50回青梅マラソン大会	81	

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
42	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2015	83	
43				おうめ環境ニュースの発行	85	
44				クーズビズ運動	87	
45				みんなで打ち水！	89	
46				ウォームビズ運動	91	
47				エコドライブ運動	93	
48				みどりのカーテンコンテスト	95	
49				ガサガサ水辺の探検隊	97	
50				多摩川まるごと遊び塾	99	
51				子どもカヤック体験教室	101	
52				炭焼き体験と水辺の交流会	103	
53				がんばれ！あゆっ子2015	105	
54				やってみようか 昔懐かしい子どもの釣り体験教室	107	
55				親子さかな釣り体験教室	109	
56				いかだで遊ぼうin霞川 part7	111	
57				じゃぶじゃぶ川の中で遊んじゃおー 川は生き物のすみかだ！遊び場だ その1	113	
58				じゃぶじゃぶ川の中で遊んじゃおー 川は生き物のすみかだ！遊び場だ その3	115	
59				飼い主のいない猫のための「里親会」・飼い主のいない猫のための里親会と相談会	117	
60				動物愛護啓発映画上映会	119	
61				さくらねこ無料不妊手術事業	121	
62	おうめこどもエコクラブ	123				
63	清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	125		
64			生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	127		
65			「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	129		
66	健康福祉部	高齢介護課	高齢者支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	131	
67			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	133	
68				認知症サポーター養成研修事業	135	
69				介護サービス相談員事務	137	
70				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	139	
71	障がい者福祉課	庶務係	青梅市障がい者交流バスハイク	141		
72		相談支援係	お助けマン養成講座開催	143		
73		認定サービス係	平成27年度 中級手話講習会	145		
74	健康課	健康推進係	第46回おうめ健康まつり	147		
75	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	149	
76				子育てひろばB型事業(にここ広場)	151	
77				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	153	
78				子育てネット事業	155	
79				子どもふれあいフェスタ2015	157	
80				青梅市民センター子育て支援事業	159	
81	子ども家庭部	子ども家庭支援課	青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	161	
82	まちづくり経済部	都市計画課	景観係	青梅駅周辺景観まちづくり	163	
83		公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	165	

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
84	まちづくり経済部	公園緑地課	公園管理係	緑地管理ボランティア	167	
85				青梅の森保全プロジェクト(青梅の森保全事業)	169	
86		商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	171	
87		農林課	林務係	森林ボランティア育成講座	173	
88	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	175	
89		社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2015～	177	
90				家庭教育講演会	179	
91				あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	181	
92		中央図書館管理課	管理係	「この指とまれ！」朗読会	183	
93				中央図書館整架ボランティア	185	
94				おはなしボランティア	187	
95	市民提案協働事業	環境政策課		青梅市の湧水調査(基礎調査&デジタルマップ作成)	189	
96		農林課、子ども家庭支援課		親子が木と共生していく木育事業	193	
97		障がい者福祉課		青梅市高次脳機能障害者グループ認知訓練午後プログラム	201	
98		企画政策課、子ども家庭支援課、社会教育課、スポーツ推進課、健康課		ママ(女性)が輝く社会の実現を目指そう応援プロジェクト	204	
99		子ども家庭支援課・農林課		木育プログラム「森の恵みの子育て・子育て！」	215	

協働事業評価シート

(94事業)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	担当課	秘書広報課広聴・国際交流担当
------	----------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年2月18日から29日 場所:第50回青梅マラソン大会会場
2継続事業	
(2) 事業の目的	国際交流の促進のため、青梅マラソン大会に参加する外国招待選手等選手・役員の受入れを、青梅・ボッパルト友好協会、青梅市日本中国友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅マラソン大会により多くの外国人に参加してもらい、国際交流を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	姉妹都市ボッパルト市からの招待選手団(5名)に対し、市長への表敬訪問および開会式・大会当日のほか、青梅市滞在中における支援を行った。
(5) 事業経費(決算額)	姉妹都市ボッパルト市からの招待選手団成田空港迎え 83,810円(バス借上+有料道路+駐車場代)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・ボッパルト友好協会 参加人数:5名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各友好協会が市民レベルでの交流を行なっており結びつきも強いいため、外国人招待選手について青梅市との共催事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:来青までの事前調整、宿泊先の確保等については、友好協会で行なっている。 行政側:大会へのエントリー、空港へ迎え、大会前日、当日の誘導や通訳者の確保を市で行っている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
青梅マラソンを通じた市との協働により、友好都市の方々との交流を更に深めることができた。			
行政側			
普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、事前調整や宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市との連携を強化し、今後も継続可能な受入体制を構築したい。			
行政側			
青梅マラソン(スポーツ)交流を継続していくため、受入体制等、身の丈にあった対応を検討して行く。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	姉妹都市提携50周年記念事業	担当課	秘書広報課広聴・国際交流担当
------	----------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	派遣:平成28年7月15日から21日 写真展:平成28年7月17日から10月30日 受入:平成28年10月23日から31日 場所:ボッパルト市、青梅市ほか
1単年度事業	
(2) 事業の目的	姉妹都市提携50周年を記念して実施する青梅市親善使節団員の選定、ボッパルト市からの親善使節団員の民泊受入、中央図書館多目的室・市役所における姉妹都市提携50周年記念写真展、青梅市滞在中の通訳およびおもてなし等について、青梅・ボッパルト友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	より多くの市民に参加してもらい、姉妹都市提携50周年記念事業を通じて、ボッパルト市との友好交流の更なる拡充を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市から29名をボッパルト市へ派遣し、ボッパルト市からは37名が来青した。 なお、ボッパルト市親善使節団員は、全員市民の家庭に民泊した。 また、青梅市滞在中の通訳、引率および歓迎会等を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	総額 約9,000,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・ボッパルト友好協会 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	友好協会は市民レベルでの交流を行っており結びつきも強いため、青梅市との共催事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:民泊家庭の照会や通訳等に関すること 行政側:ボッパルト市との調整、記念式典の開催、おもてなし等に関すること

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
50周年記念事業を通じて、ボッパルト市民の方々との交流を更に深めることができた。			
行政側			
普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市との連携を強化し、今後も友好交流の裾野を広げて行きたい。			
行政側			
今後の記念事業に向け、受入体制等を今から検討して行く。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	企画政策課企画政策担当
------	-------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎年 場所： 青梅市役所会議室他
2継続事業	
(2) 事業の目的	男女平等情報紙を通じて市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(4) 実施内容(実績値等)	情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行を行う。
(5) 事業経費(決算額)	1, 156, 630円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 食を考える会、NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、市民一般公募(2人) 参加人数：各団体1人ずつ計5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めようため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民への情報提供という行政の仕事の一端に、直接意見を述べたり編集作業に参加できたことは、とても貴重な経験となった。行政から伝えたいことと市民たちが知りたいことを同じテーブルで話し合うことができたので、内容の豊かな情報紙となった。</p>			
<p>行政側 市民と協働で発行することにより、堅苦しい情報紙ではなく、市民が読みやすい情報紙が発行できた。内容について市民が知りたい情報や疑問に感じていることなどを話し合うことができ、意見交換の場としてもよい機会である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 「男女平等」に関する市の方針や基礎知識を持って編集に参加できるよう、事前の学習会等があるといい。また、編集会議の日に仕事の都合がつかない方もあり、全員揃って参加できなかったことがなかった。そのためやり直しに時間が取られた場面も多かったので、日程や内容を早めに調整できるよう工夫したい。</p>			
<p>行政側 男女平等参画社会の実現をめざし、行政が発行する情報紙としての認識を維持しながら市民が親しみやすい内容の情報紙を発行しなければならない。また、編集作業において役割分担を整理することで、より効率的な運営体制となる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ぷらっとカフェの協働開催	担当課	企画政策課
------	--------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成27年5月29日 場所:市役所7階食堂
1単年度事業
(2) 事業の目的 第6次青梅市総合長期計画を推進するにあたり継続的に開催している「ぷらっとカフェ」において、おそきの学校と地域を考える会と青梅市が協働で取り組んでいる小曾木地域の空き家活用等を事例として、「青梅ならではの空き家活用」と題したワークショップを開催した。
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 参加者数 40名以上
(4) 実施内容(実績値等) 参加者数 46名
(5) 事業経費(決算額) 50千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:おそきの学校と地域を考える会 参加人数:10名
(3) 協働の提案者 1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ これまでのぷらっとカフェに参加していただいていた団体の代表者の方に提案を持ちかけた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事例発表、参加の呼び掛け 行政側: ぷらっとカフェの開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 効果大。他地域での先進事例を聞き、今後への活力が得られた。また、「考える会」は小曾木地区内においては地域住民を中心に1年に4～5回の会議でテーマを持って意見交換を行っている。今回は、「ぷらっとカフェ」による協働で、より広い地域の様々な方々と意見やアイデアの交換を行うことができた。</p> <p>行政側 「考える会」より、具体的な取組事例を紹介していただいたことで、参加者がより具体的な内容に関する対話をすることができ、満足度の高いワークショップになったと思う。 また、行政としても、さまざまな意見や提案を集めることができ、今後の活動の参考になった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 青梅市および小曾木地区を未来へ向けては住民がより主体的に動くことが今後は必須であり、すでに遅れている状況である。このような協働での活動をより活発化し、住民はより主体的に、市職員はより青梅市全域をどう自分達で支えていくのかを意識した動きにつなげたい。効率的に運用するには、市役所の各課を横断し自らも動く部署(現状からだ市民活動推進部の設立だろうか)がないと、青梅市の人口減少率の歯止めは効かないと思う。</p> <p>行政側 ワークショップで出された意見や提案について、具体化できるように「考える会」との協働を進めていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課防災係
------	----------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年1月17日（日）午前10時から12時 場所：青梅市役所2階204～206会議室および災害対策本部室
2継続事業	
(2) 事業の目的	1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、市民の防災知識の向上を図ること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	より多くの住民参加と防災意識等の啓蒙・啓発
(4) 実施内容(実績値等)	講演内容 ○家庭や地域の防災対策 ～自分を・大切な人を守るために～(講師 国崎信江 危機管理研究所) ○青梅市自治会連合会長講話(井上 一雄 会長)
(5) 事業経費(決算額)	70,000円(講師派遣委託料)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市自治会連合会 参加人数：295人(市民含む)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	防災意識の向上と自治会活動の活性化および加入促進を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：自治会員に対する周知活動 行政側：市民、関係機関等への周知

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市と協働で行うことにより、会場確保等の事務負担の軽減や幅広く専門知識のある講師を招く防災講演会が実施できた。			
行政側 市と自治会連合会が連携を図ることができ、市民の防災意識の向上を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 講演会に参加出来なかった自治会員への情報提供			
行政側 より多くの市民の参加を図るための周知と自治会未加入者の防災知識の向上			

協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年10月16日(金) 午前10時から午後4時 場所：
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京都行政書士会多摩西支部 参加人数：3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。			
行政側 相続、遺言に関する相談や成年後見制度の普及を図れた。相談者数:10人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。			
行政側 行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年10月23日(金) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数：12人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：相談員派遣、相談対応 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができた。			
行政側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。 相談者数:14人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年9月7日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	不動産取引に伴う一般消費者の利益保護のため、不動産に関する知識の普及と安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士、税理士および全日本不動産協会東京都本部多摩西支部の相談員による不動産全般の相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	(公益社団法人)全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができた。			
行政側 市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。 相談者数:32人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料相談会の開催により、不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止に努めていきたい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-------------------------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年10月1日(木)・12月3日(木) 午後5時から午後8時10分 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)、東京三弁護士会多摩支部 参加人数：各回1人 計2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日本司法支援センター(法テラス)からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。			
行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。 相談者数:10人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。			
行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年10月31日(土)・11月1日(日) 午前10時から午後4時 場所:永山公園グラウンド(産業観光まつりに併設)
2継続事業	
(2) 事業の目的	『「支えあおう日々のくらし！みんなの笑顔のために！」～みつけてかえろう 楽しむヒント～』をテーマに、消費生活に関する知識や情報を発信し、自立した消費者をめざす啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	産業観光まつりの来場者に対し、展示、催し物等により啓発を行った。 クイズコーナー 2日間 960人 東京牛乳ラスク・サブレの配布 2日間 360個
(4) 実施内容(実績値等)	展示コーナー(食を考える会、パルシステム東京、コープみらい青梅・奥多摩コープ会等) 960人 試食コーナー(東京牛乳ラスク・サブレ配布) 360個 人権・行政・交通安全・男女平等参画・自治会連合会コーナー:960人 おもちゃの病院:7件 消費者相談:4件 消費者クイズ 300人 煙体験ハウス 600人
(5) 事業経費(決算額)	委託料 1,053,491円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名・参加人数 「食を考える会」9人 「パルシステム東京」10人 「コープみらい青梅・奥多摩コープ会」 10人 「都立青梅総合高等学校」 16人 「都立多摩高等学校」 12人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度までは消費生活展として実施していたが、婦人会組織がなくなったため、平成17年度から市民のくらし展として実行委員会を組織して開催している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 啓発パネル等の作成、展示、説明 行政側: 会議の設定、会場の総括、準備、整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 2日間の来場者は延べ12,900人となったが、生活の中で今知ってもらいたい情報を多くの人に発信することができた。また、各コーナーについても多くの人に知ってもらう機会を作ることができた。</p>			
<p>行政側 くらし展は、産業観光まつりに併設して行っているが、多くの来場者があり、消費生活をはじめ人権、行政相談、自治会等について効果的な啓発活動ができた。また、集客のために行ったクイズの景品を青梅市産の野菜等にしたり、青梅産の牛乳が含まれているラスクやサブレの配布を行うことで、地産地消の推進を図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 より多くの人に足を止めて見てもらえるような展示の工夫などが必要。実行委員会時の打ち合わせだけでなく、細かい点などは、その都度打ち合わせていく必要がある。構成員の減少などにより協力が負担に感じる。</p>			
<p>行政側 くらし展は、現在3団体が実行委員会形式で進めているが、団体の構成員も自分の団体の活動が忙しく、本事業への負担が大きくなってきている時期である。しかし、くらし展では、消費生活をはじめとする各種の情報を多くの人に発信できる場でもあるため、今後、協力団体数の増加や内容の見直し等の検討も必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月13日、7月1日、10月8日、12月4日 場所:市役所階会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	
(4) 実施内容(実績値等)	協働事業実施結果について意見をもらう。 今後の協働のあり方等について意見をもらう。 青梅市市協働事業推進会議と合同視察研修
(5) 事業経費(決算額)	謝礼金 90,000円(1人10,000円×9人)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティアセンター 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	協働相手:提案や意見の発表 行政側:会議の事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働を推進するというテーマを市民と行政で意見交換することができた。他市への訪問研修も庁内委員会と市民委員会と一緒に出来たが今後の共同推進の考えや方向にプラスになった。</p>			
<p>行政側 市民協働事業と合同で視察研修を行い、課題を共有をすることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 庁内委員会との懇談を深め、現在の課題や今後の計画について具体的に進めて行くことが必要。市民団体の高齢化、若者世代の参画呼びかけなども大切。</p>			
<p>行政側 委員会の中で出た意見等を受け、協働を推進につなげていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新任職員向け協働研修	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月22日(金) 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	新任職員に対し、協働について理解してもらい、ボランティアセンターを知ってもらう
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	協働について基本的事項を理解してもらい、今後の事業実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等)	「進めよう！市民と行政で行う協働のまちづくり」と題した講義、 「市民と協働したいこと」をテーマにグループワークを行った。 新任職員 22人
(5) 事業経費(決算額)	10,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:3人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働の研修が新任研修に組み込まれることになり、ボラセンとの協働を投げかけた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	ボラセン:協働のグループワーク補助 行政側:研修の企画、講師との調整、消耗品の負担

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター グループワークではファシリテーターとして一緒に行ったことで、青梅ボランティア・市民活動センターを知ってもらうことができた。			
行政側 講義では、協働についての知識、必要性を学んでもらうことができた。グループワークでは活発に意見が出て様々な協働事業が提案されていたので、新人職員に対して協働についての知識が得られたと認識した。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 新任職員さんたちから様々な協働事業が提案される中で、ボラセンとしても業務で一緒に実践できる提案ができる場を作っていきたい。			
行政側 新任職員に対し、協働についての基礎知識、意識の向上を図り、業務で実践していけるよう引き続き行っていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2015	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年9月20日(日) 場所:市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。 地域や世代を超えた交流や発表の場を創り、より一層のコミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民がさまざまな形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	・ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業等の活動紹介と展示、模擬店出展、バザー ・10周年企画としてみんなで作るお〜ちゃんの地上絵(総勢110名)、パネル展示、テーマロゴの表彰
(5) 事業経費(決算額)	1, 301, 415円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市社会福祉協議会 参加人数: 4, 000 名(うち出店者・関係者 984 名含)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業実施、広報活動(広報おうめ以外) 行政側:事業実施のサポート、広報活動(広報おうめ)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民などがフェスタを通し交流することで、相互の理解を深めることが出来た。			
行政側 ボランティア団体の活動状況を把握でき、コミュニケーションを図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 荒天時などあらゆる事態を想定することも含め、役割分担などの打ち合わせを十分に行っていきたい。			
行政側 協働事業として今後確立させるため、事前協議と当日の役割分担を明確にしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座「仲間を増やせる！！市民活動の企画力・広報力アップ術」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------------------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年2月29日(月) 場所:福祉センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化をすることで、新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	組織運営について基本的事項を理解してもらい、今後の団体運営および協働事業の実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等)	「仲間を増やせる！！市民活動の企画力・広報力アップ術」と題した講義とワークショップ 参加者 23人
(5) 事業経費(決算額)	報償費 26,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:3人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	ボラセン:企画、受付、運営 行政側:企画、受付、広報、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体が必要としている研修を行うことができたため、多くの方が参加した。また、実際にグループワークにも参加し、相互の意見交換を行うことで今後の団体運営および協働事業の実施に役立てることが出来る機会になった。			
行政側 ボランティア・市民活動センターでの周知をしてもらうことで、多くの団体に周知することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体が組織を運営していく上で必要としている内容を把握し、行政と十分な協議をして臨んでいきたい。			
行政側 NPO法人、市民活動団体向を対象に「開催してほしい講座についての」アンケート調査を行い、回答が多かった内容の講座を開催したことで、団体への支援につなげることができた。今後も講座内容について青梅ボランティア・市民活動センターと考えていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年6月、9月、12月、平成27年3月（年4回発行） 場所：小曾木地区、小曾木市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	おそきだよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、おそきだよりの発行をする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る
(4) 実施内容(実績値等)	情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。
(5) 事業経費(決算額)	198,288円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おそきの学校と地域を考える会 参加人数：34名（おそきだより発行部数1回1,700部、小曾木地区全戸配布、市内要所配置）
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民提案協働事業申請により採択された事業
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：企画、情報収集、編集、発行、配布 行政側：経費の負担、編集、配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 編集会議の段階から記事の作成・校正まで保育園長・小中学校長・自治会関係者・市民センター長など青梅市職員等を含めた人員が参加して写真を多用した紙面作成を行い、青梅市の協働で発行することにより、個人の意見でない地域の持つ課題や情報として見やすく周知され、地域市民意識の向上につながっている。</p> <p>行政側 協働で発行することで、市民の身近な情報や地域の課題が掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 小曾木地区での諸活動の共有のために「おそきだより」は存在し、活動の理解につながっている。自治会とともに活動を進めている団体として、自治会の苦労もわかる中での他地域への活動提案ができると、より市民・行政の一体感が深まった中での地域課題の理解や解決へ向けての相互努力につながるよう取り組む。</p> <p>行政側 地域に関する新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回 平成27年8月5日 第2回 平成28年1月28日 場所: 青梅市民センター多目的室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター施設利用状況、生涯学習事業実施状況、図書館利用状況、市民センターの運営について協議
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター運営協議会謝礼金 90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 第1支会、スポーツ推進委員、青少年委員、1中PTA、1小PTA、青梅地区高齢者クラブ連合会、センター利用団体、公募委員 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市民センターの運営に関して協議する。 行政側: 協議会の提案等により効果的な活用を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センター施設の利用状況や業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。			
行政側			
市民センターの運営等について率直な意見が得られやすい良い機会になっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
青梅市民センターを含めた青梅地区公共施設再編計画についての議論が必要。			
行政側			
今後も運営協議会の意見を尊重し青梅地区の公共施設再編に活用する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年11月28日(土)・29日(日) 場所：青梅市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターを利用する自主グループおよび地域の方で趣味等の作品展示、演技披露等により広く地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市民センター利用自主グループの発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市民センター利用自主グループの作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定をし、延べ500人の入場者を記録した。
(5) 事業経費(決算額)	12,625円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数：16団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの発表の場と交流の場、親睦の輪を広げるため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 団体代表者および担当者が年5回の実行委員会に出席。前日、当日は会場設営および撤収作業を行った。 行政側： 実行委員会業務、当日に向けての準備事務、会場準備等を行った。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 昨年の反省を活かしつつ、より効果的な実施に向けて検討を重ねた。自主グループの活動発表の場、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として成果があったと思われる。</p>			
<p>行政側 行政と自主グループおよび地域住民との交流が図られ、センター利用団体が一致団結することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 地元小学校、保育園や幼稚園などへの周知および集客方法が課題である。</p>			
<p>行政側 地域の子どもたちを巻き込み、体験・参加してもらう工夫が必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成27年7月24日、 第2回 平成28年3月3日 場所:長淵市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第二支会、二小、二中PTA、友田小PTA、一中PTA、元第二婦人会、スポーツ推進委員、青少年委員、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:センター運営全般について協議する 行政側:センター運営全般について協議する

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にした い。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵地区文化祭	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年11月7日、11月8日 場所:長淵市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅市長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定
(5) 事業経費(決算額)	支出額:19,284円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:長淵地区文化祭実行委員会 参加人数:29団体および個人出展7人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側:実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。			
行政側 市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側 参加団体、入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回(平成27年7月31日),第2回(平成28年2月25日) 場所： 大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	大門市民センターの効果的活用および適正かつ円滑な運営について協議すること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の団体や市民が主体となった協議機関として、市民センターに置く機能や運営について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用状況、住民票等の交付状況、文化祭等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	報賞費 95,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第3支会、保育園園長、子供会育成会、青梅市スポーツ推進委員会、霞老壮大学、防災対策委員会、中学校校長、利用団体各1名、公募委員2名 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する。 行政側: 提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの効果的な活用、サービス向上について意見交換ができ、地域住民の要望等を得やすくなったが、予算の制約から実現に結びつかない事項があった。</p>			
<p>行政側 センターが地域に密着し市民の声が行政に反映され、また行政から地域への情報等が円滑に行え、地域の拠点としてのセンターに有効である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 より活発な発言が出来る関係づくり</p>			
<p>行政側 センターをより効率よく運営出来るよう協議会の意見を尊重し実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年11月21日・22日 場所:大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体および地域住民の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場として、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動および地域の住民の発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーおよび地域の人々の作品の展示や発表を行い、大門地域のふるさとまつりと同時開催の 効果もあり2,289人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 5,835円 パネル準備費 201,960円(6センター協同)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:大門市民センター文化展実行委員会 参加人数: 196人(作品出品者)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の自主性と活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 団体代表者が実行委員として会の運営に係る。当日は、参加団体メンバーが行政側と共同で会場設営・撤去等を行う。 行政側: 実行委員会を開催して協議を進める。展示等に必要なるものを準備する。展示パネルの設営・撤去。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果をみてもらうことができた。			
行政側 施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 多くのセンター利用団体による参加、出品、発表。展示スペースの拡充。			
行政側 展示会場、展示道具の老朽化。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ふるさと地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年3月30日 場所:大門市民センター管内
2継続事業	
(2) 事業の目的	近くに住む人同士親睦をはかりながら、身近な地域を知り、新たな発見と人とのつながりをつくることを目的とする
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの市民に参加してもらうことにより、地域住民の親睦を深める。
(4) 実施内容(実績値等)	大門市民センター管内を散歩しながら、地域の歴史の話を聞く。
(5) 事業経費(決算額)	市予算(市民活動事業経費・報償費・講師報償金)から 7,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数:
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域を活動拠点としていたので、センター事業を実施したい旨相談したところ、目的が合ったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側: 事前協議、広報等での周知、当日の資料準備等の事務

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 地域で活動している団体なので、地域住民との親睦をはかるとともに、団体の活動内容を知ってもらうことが出来た。			
行政側 身近な地域の歴史に触れるとともに、地域の人達の交流をはかることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 今後もセンターとの協働で実施していきたい。			
行政側 今後も内容を変え、霞川くらしの楽校との協働で実施していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成27年9月4日(金)、第2回 平成28年3月24日(木) 場所： 梅郷市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円(第1回 5,000円×10人、第2回 5,000円×10人)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、 参加人数： 10人(男性6名、女性4名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターの運営状況を知ることができ、また、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝える場となっている。			
行政側			
市民からの率直な意見が得られやすい機会になっており、市民センターの運営等について要望等を得るうえで有益な場となっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。			
行政側			
運営協議会の意見等を尊重し、市民センターの運営に対応していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年11月8日(日) 場所：梅郷市民センター体育館、会議室、駐車場
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。
(5) 事業経費(決算額)	支出額：75,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数：25人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での打合せ。文化祭会場の設営および片付け。 行政側： 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
施設利用団体や地域住民の成果発表の場として、また、団体相互の親睦、地域住民の交流の機会として効果がある。			
行政側			
施設利用者の活動成果の発表の場作りにおいて意見交換ができ、団体・地域住民の交流、親睦に効果がある。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側			
参加団体および入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成27年9月30日 第2回 平成28年3月16日 場所:沢井市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の事務、地域団体の事業に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告および協議
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 90千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第5支会支会長(1)、自治会長(1)、スポーツ推進委員(1)、消防団団長(1)、高齢者団体(1)、PTA 会長(1)、沢井市民センター利用団体代表者(2)、公募委員(2)。委員定数10人。 参加人数: 9月30日の出席者は10人。3月16日の出席者は8人。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側: 助言を活かし、市の事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからも一層活用する。			
行政側 現状および情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとして、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年11月8日(日) 場所:沢井市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会を提供する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者数700人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容(実績値等)	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 20千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	「第5支会」約10人。「清涼会」(老人会)約10人。「三田同友会」約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体約200人参加。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用自主グループの作品・実技、また農産物をより大勢の人に鑑賞・観賞していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ 行政側: 主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片付け

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。</p>			
<p>行政側 事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 若い世代の参加および来場者が少ない。</p>			
<p>行政側 市民センター利用団体も高齢者が多く、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成27年8月7日、第2回 平成28年2月24日 場所:小曾木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの運営を適正、円滑に進める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成27年度市民センター関係予算、市民センターの在り方、平成27年度市民センター生涯学習事業の実施状況、市民センター・図書館の利用状況、平成28年度市民センター予算・生涯学習事業の予定
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:自治会第6支会、社会教育団体のうちスポーツ団体、文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数:第1回 9人、第2回10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域特性や地域の住民のニーズに対応した市民センターの運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側: 地域発展に向けて市民センターの在り方について検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターの運営状態が良く分かった。			
行政側 市民センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターの利用率を高めるための工夫が必要であると感じた。			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。市民側から施設・備品の老朽化等を指摘され、改善の要望等をいただくことが多い、市の財政状況等から対応が困難な場合が多い。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年11月7日、8日 場所:小曾木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果として作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小・中学校総合学習の成果発表、農産物の展示、販売を行った。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金および寄付金等で運営している。 平成27年度支出額 29,280円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数:参加団体19団体、一般観覧者623人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作品の展示片付け 行政側: 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民センター利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民とが一体となって事業を行うことにより、市民センターがより身近な存在となる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センター利用団体および文化団体が高齢化等の理由から参加者が減少傾向にある。			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農産物の展示販売が人気が高いので是非続けたい。六中吹奏楽部による演奏は、他の催しとの関係から会場が野外(市民センター駐車場)であるため、天候により会場が変わる問題がある。これからも、より多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年8月4日、平成28年3月2日 場所：成木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成27年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成27年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況・図書館利用状況について・平成28年度市民センター予算の概要・平成28年度成木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費(決算額)	成木市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会、第七支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、成木地区教育環境等研究会、施設利用団体のスポーツ団体・文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年11月7日、8日 場所：成木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	60千円(59,675円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 参加人数：27団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ (自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	-------------------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年5月31日 場所：成木市民センター～常盤林道
2継続事業	
(2) 事業の目的	恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標参加人数500名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容(実績値等)	ヒルクライム(自転車で山道や坂を上る)競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費(決算額)	市予算なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数：217名(レース参加者(棄権等除く))
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域の一体化を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 開催準備、交通整理、受付、撤収 行政側： 準備品用意、交通整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相互理解、地域の親睦、つながりが深まる			
行政側 行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要			
行政側 駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成27年8月6日 第2回 平成28年2月4日 場所： 東青梅市民センター第1会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	東青梅市民センターの活用・運営方法の検討、センター事業の評価、地域の声の反映
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の代表者が主体となり、地域の市民センターの有効な活用・運営を協議し、より利用しやすい市民センターを目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	センター事業・予算・決算報告、センターおよび図書館の利用実績、住民票・証明書の交付実績、利用者要望の協議
(5) 事業経費(決算額)	謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第八支会、市民センター利用団体(文化系・体育系)、NPO法人こども未来、青梅市青少年対策第八支会地区委員会、青梅市青少年委員、青梅市スポーツ推進員、公募委員 参加人数： 10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 利用しやすい市民センターについて、市民目線で協議および意見の提案 行政側： 委員会の開催、資料の提供、市民センターの現状を報告

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側			
センターの現状報告に対して運営委員会の協議結果、意見がおおむね反映された。			
行政側			
市民目線の意見・要望等を知ることができ、今後のセンター運営の参考となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
図書館の廃館、子育て広場の設置の考えについて、運営委員会には事後報告であったことから、地域の声が反映されたことにはなっていない。業務・施設の大きな改善・改修は何らかの形で知らせてもらうことが必要。			
行政側			
地域内における市民センターについて、率直な情報・意見が得られている。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅センター文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年10月10日、11日 場所： 東青梅市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	東青梅地区の芸術文化の向上および市民センター利用者の発表の場
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の芸術文化の向上および生涯学習の推進
(4) 実施内容(実績値等)	地域住民および市民センター利用者の絵画、書、盆栽などを展示
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 11,290円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 地域住民、市民センター利用団体 参加人数： 団体 18 ※来場者 528人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域住民および市民センター利用者と連携して、地域の芸術文化の向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(参加団体による実行委員会の設置)
(6) 役割分担	市民側： 作品の作成および成果の発表、運営の補助 行政側： 運営、会場(発表の場)の確保、広報

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 作品の展示、活動の発表により、文化活動について多くの住民に知らせることができた。			
行政側 地域住民の芸術文化の向上が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 体育館の照明、駐車場の狭隘を十分でなくても改善を図ることが必要			
行政側 作品数、参加団体の減少が続き、参加団体が固定してきている。新たな人材、団体の発掘が必要			

協働事業評価シート(表)

事業名称	松竹梅の寄せ植え教室(センター事業)	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年12月12日 場所： 東青梅市民センター第1会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	地域の人材発掘を新たに発掘・連携し、新たなセンター事業を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の人材を新たに発掘し、その技術、知識を住民に紹介するとともに市民センター事業の充実
(4) 実施内容(実績値等)	お正月飾りとして、松竹梅の寄せ植え(ミニ盆栽)を作成
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金 6,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 松原和夫氏(個人との協働) 参加人数： 1人 (教室参加者 28人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新たな人材を発掘し、市民センター事業の充実を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に()
(6) 役割分担	市民側： 材料の用意、資料の作成 行政側： 事業の実施、会場の確保、広報

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側 新たな生涯学習の講師として紹介された。			
行政側 地域の人材が発掘でき、市民センター事業の充実が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 継続的な教室の開催を検討できればよい			
行政側 新たな人材を活用し、地域に新たな生涯学習サークルを発足することを考える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回 平成27年8月20日 第2回 平成28年3月3日 場所: 新町市民センター第1・第2会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターの効果的な活用を検討するために設置
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの運営に関して協議する。
(5) 事業経費(決算額)	新町市民センター運営協議会委員謝礼金95,000円(5,000円×9人×1回、5,000円×10人×1回)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 新町市民センター運営協議会(第九支会、青少年対策地区委員会1名、小学校PTA1名、中学校PT1名、施設利用団体1名、公募委員2名) 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市民センターの運営に関して協議する。 行政側: 協議会の提案等により効果的な活用を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対して、要望や意見の発言により、センターを身近なものにできる。			
行政側			
市民側の意見を直接聞き、センター運営に反映することが可能となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センターのより良い運営に向けての意見交換の場として活用する。			
行政側			
運営状況等の情報提供を積極的に行い、住民の意見収集の場として活用し、市民センターの良好な運営を図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	--------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年11月7日(土)、8日(日) 場所:新町市民センター体育館および本館(会議室、和室等)
2継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターを利用している文化団体の活動を広く地域住民に紹介するとともに、新町市民センターを地域の交流の場として活用することを目的に実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域住民が、文化活動の成果を発表し、発表の場としての新町市民センターに来館することによって、地域住民の交流による地域の活性化を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	作品展示・舞踊、演奏、模擬店および地元農産物の販売等
(5) 事業経費(決算額)	支出した額95,741円(消耗品29,557円、パネル運搬費43,200円、文化祭用白布等洗濯料22,984円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:新町末広地区市民文化祭実行委員会(新町市民センター運営協議会委員10人、文化祭参加団体の代表者20人、青梅市自治会連合会第九支会役員および前年度第九支会役員15名) 参加人数:45名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会を組織し、主体的に運営する。 行政側:展示に必要な用具の提供と実行委員会として事務局の機能を果たす。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効である。			
行政側			
市民の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施された。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
高齢化等により、参加者が年々減少している。地域の活性化のためにも、参加者の規模の拡大が必要			
行政側			
参加者、来場者の減少に対して、参加者による周知努力により増加を図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回平成27年6月25日(木)、第2回平成28年2月24日(水) 場所:河辺市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、分館図書館の利用状況、河辺市民センター文化祭等に関する報告と意見交換
(5) 事業経費(決算額)	河辺市民センター運営協議会委員謝礼金 80,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:地元自治会2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、霞台第1住宅代表1人、民生児童委員1人、スポーツ推進員1人、公募委員2人 参加人数:延16名(第1回7名、第2回9名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	河辺市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市民センターの効果的な活用方法の検討 行政側: 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活かす

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターと地域の交流・意見交換の場として有益であったと考える。			
行政側 市民センターと地域の交流・意見交換の場として有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 地域の様々な要望がなされても予算を伴うものはなかなか反映されない。 子育て広場等についても、詳細が決定後に協議会での報告となっており、意見が反映されにくかった。			
行政側 要綱設置の協議会のため、単なる意見交換の場になってしまっていることが多い。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年10月24日(土)、25日(日) 場所:河辺市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、一層の河辺地域のコミュニティー醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援、市民センター利用率等の拡大および地域コミュニティーの醸成
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会自治会、食育クラブ等の出展
(5) 事業経費(決算額)	3, 516円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数:32団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を設けることから、地域住民の作品展示へと拡大していった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での意見をもとに、会場準備、作品展示および片付けまでを市民センター側と自主的に協働して行う。 行政側: 文化祭実行委員会の設置、参加者募集、会場設置・運営事前準備のほかは、すべて実行委員会・参加者と協働で行う。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターを活動拠点としてきて発表の場ができ、活動に張り合いが出る。			
行政側 利用者とのコミュニケーションが図れ、市民センター運営に効果があった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 双方良好な関係を保つことができたが、参加者の高齢化が進んできているため、力仕事を伴う準備が難しくなっている。			
行政側 長く継続してきた事業であるため、双方の良好な関係が築かれている。 今年度は、実施日を10月第3週から第4週に変更があったが、今まで出展していた団体が出られなくなったことがあり、次回は早めに団体募集を始める必要がある。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回(平成27年7月6日)、 第2回(平成28年2月29日) 場所： 今井市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況、平成27年度予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	出席者： 日石芸建ロ云第11又云4人、月少十刈界第11又云地ハ安貝云1人、へ小一ノ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人、今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 参加人数： 述べ17人(第1回9人、第2回8人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供による利用者り率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側			
利用者からの意見や要望に対する行政の適切かつ的確な対応。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年10月31日、11月1日 場所：今井市民センター体育館、和室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い657人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	文化展消耗品費12,208円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：今井市民センター文化展実行委員会 参加人数：延べ116人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会により会場の配置図等を作成し、各団体で会場を設営する。 行政側：展示用具等を提供する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。			
行政側			
施設利用団体の活動内容の把握と交流をはかることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センター利用団体のより多くの参加、出店、発表			
行政側			
出店、発表者へのより良い環境づくり。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	第50回記念青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課 スポーツ推進係
------	----------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年2月21日(日) 場所:10キロの部 東青梅四丁目西～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部 東青梅四丁目西～川井(折返し)～青梅市総合体育館前
2継続事業	
(2) 事業の目的	①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加者(定員19,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容(実績値等)	ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部
(5) 事業経費(決算額)	ボランティア用の帽子：約70万円、ボランティアジャンパー：405万円 ボランティア弁当：約220万円 ※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(青梅市陸上競技協会は主催団体の一つなので「1. 計画段階」
(6) 役割分担	市民側： 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側： 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	2
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 第50回記念大会を通じて、マラソンに関心のなかった市民もランナーの頑張る姿、またボランティアの広範な活動等を見て、マラソンって素晴らしい、自分も参加してみたいと市民意識を盛り上げている。</p>			
<p>行政側 多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ることで、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。大会ボランティアや観客の方が、沿道からあたたかい応援がもらえると参加者からの多くの声をいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 全国的に多くのマラソン大会が行なわれ、ランナーが大会を選べる時代になった。時代に乗り遅れない大会運営をしていく必要がある。現在マラソンコースがせまいという問題もあるが、ランナーが楽しく走れるよう考えていきたい。</p>			
<p>行政側 ①ボランティアの割り当て(役割分担、配置場所)の再検討 ②ボランティアへの救命講習会の実施等、医務救護体制の強化 ③テロ等、非常時を想定した連絡体制・警備体制の見直し</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2015	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年6月1日(月)～6月30日(火)(5月29日(金)は市庁舎ロビー準備) 場所:6/7BOX KI・O・KU 6/1～26市庁舎ロビー 6/9～6/30中央図書館 6/20市役所 6/27～28中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(4) 実施内容(実績値等)	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による講演会、展示、ワークショップなど
(5) 事業経費(決算額)	309,891円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2015実行委員会、ボランティア等 参加人数:250名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側:1ヵ月間のフェスタ実施が2年目となった。担当課の協働事業への理解度の高さと柔軟な対応、職員の誠意と努力の賜物である。適切な時期の広報おうめの紙面や折込の環境ニュースの準備などPR効果を高められた。前年度から市民側の負担がさらに軽減され、更に企画に専念できた。</p>			
<p>行政側:市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールするこの事業は啓発効果が高く、環境について考える場を提供できるといった点からも意義があると考えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:市主催の環境フェスタに、第1回以来初めて市長が出席し、基本姿勢を示されたことは心強い。ごみ分別ゲームで毎年清掃リサイクル課の参画があるのは高く評価したい。環境部長、環境政策課長以下政策課担当職員は精一杯努力していたが、フェスタのイベントごとに、他の係職も分担されて、管理係のみに負担が偏らないようにしていただきたい。今後、市民による講演会やワークショップを環境各分野でもれなく実施し啓発効果を高めたい。そのためには講師料をさらに確保していただきたい。</p>			
<p>行政側:参加主体の増加に伴い、実行委員会にはさらなる調整力が求められていることや、1ヵ月間に及ぶ事業になるので更なる柔軟な対応や配慮が必要になってくると考えられる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年3月15日発行 場所:市内の新聞を取っている世帯および戸別配布を希望した世帯
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成27年度における市の取り組みおよび市内の環境活動の紹介を通じ、環境への意識啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	おうめ環境フェスタ特集号として、紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。
(5) 事業経費(決算額)	461,884円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案 行政側:記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:行政の広報という公の視点で市民団体の活動や青梅を取り巻く環境を伝えることができた。行政と市民がともに地域の環境の課題に取り組む姿勢を一般市民にアピールし、参加を呼び掛けることができた。			
行政側:市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:広報と別紙で配布しているが記事に目を通す方がまだ少ないようで反応が聞かれない。環境意識の向上、参加の呼びかけ等のためには、目を惹く写真などを表面に載せたり、関心を惹く記事内容の工夫が更に必要。			
行政側:市民感覚を取り入れるといったコンセプトに対して、一定の成果はあったと考えているが、より多くの方々に読んでいただけるような工夫が一層必要である。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	---------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月11日～平成27年10月16日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費6,480円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: クールビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 事業所ではトップが方針を打ち出して徹底しない限り、個人の体感の違いもあり難しいと思います。協力することで宣伝になったり、エネルギーコストが削減されたりすることが分かれば協力を得られやすいと思います。</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 取り組み事例の発表会を行い評価するなど褒めて伸ばす対策が有効と思います。</p>			
<p>行政側 クールビズについては、周知されつつあるが、更なる意識啓発のため、啓発物品(卓上のぼり旗)の提供と、それをういた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年7月26日～平成27年8月1日(打ち水ウィーク) ※7月29日は全市一斉打ち水 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡充を目的に、平成21年に市内の各種団体、事業者が一同に会する環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「打ち水」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 打ち水の実践 行政側: 企画と周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 リードはやはり利害関係を超えた立場の行政側になると思います。また事業者は取り組み姿勢を示すことで宣伝になるので協力が得られやすいと思います。どのように公平に計測し評価するかが課題。</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 事業所等に協力を募り、結果を数値で計測し広報誌・HP等で公表することで事業者は環境への取り組みの宣伝になり数値(気温)もゲーム感覚で毎年楽しめると思います。</p>			
<p>行政側 広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、ある程度の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年11月16日～平成28年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費6,480円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市役所職員など見本を示すべき立場の方と一般事業所や家庭では呼びかけの効果に大きな差が出ると思います。事業所や家庭ではその集団に影響力のある人や多数派に主導権があり、ポスター掲示や数値目標、光熱費コストなどを常に意識して確認しないと快適で楽な方へ流れていきます。</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 モデル事業所を募って実施前と後のコスト比較を行うようにする。実際には建物の断熱保温効果を高める工夫での温度計測などと合わせて数値化し達成を確認するようにするべき。市の広報やHP等でも紹介参加事業所側にうまみを出すことがやる気につながる。</p>			
<p>行政側 今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 リードはやはり利害関係を超えた立場の行政側になると思います。また事業者は取り組み姿勢を示すことで宣伝になるので協力が得られやすいと思います</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、エコドライブ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市の広報などで目にした記憶はあるものの、すでに実施している主体と実施していない主体があり、スタート時点と評価時期、削減値の計測ができていないと思うので、モニター等モデルケースで計測し、公表するようにしてはどうかと思います。</p>			
<p>行政側 今後も啓発物品(ステッカー)の提供やポスターの掲示等により、周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテンコンテスト	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月17日～10月24日(募集の事前告知から表彰式まで) 場所:青梅ガス株式会社本社(表彰式会場)
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	市内の一般家庭、事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバック活用
(5) 事業経費(決算額)	7,305円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数:20人程度(表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側:周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務、表彰式会場運営協力

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側:弊社の環境方針に相違ない事業であり、環境保全意識高揚と省エネルギーを意識した暮らし方の浸透に貢献している。			
行政側:みどりのカーテンコンテストの実施を行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの周知は、みどりのカーテンそのものへの取り組み喚起につながったと考える。受賞作品選定において、専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス(株)のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:コンテスト参加者増を数値目標とするならば、抜本的な広報展開見直しが必要で検討要と考えている。(参加者の固定化が伺える。)また、青梅ガス側でのSNS活用方法およびコンテスト副賞の見直しを行う。			
行政側:今後も、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体が増え、コンテストにも参加していただけるようアピール方法を検討したい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ガサガサ水辺の探検隊	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年7月4日(土) 場所:河辺市民球技場前の川原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	ヤマメ・鱒をつかみ取りして自分で調理、ライフジャケットを着用しての安全指導の他、水の中に棲む色々な生物を捕まえて観察するガサガサ体験など
(5) 事業経費(決算額)	276,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム 7人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。行政側の担当(課長)が代わった直後のイベントだったが、引き継ぎがうまくされていて、比較的連携がよかったと思う。</p>			
<p>行政側:当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:子ども達がカッターナイフで魚をさばくとき怪我しないように、必ず親子でさばくことを徹底する。魚を焼く数が大変多いので火傷、熱中症に気をつけること。魚のつかみ取りをするための生け簀づくりが大変重労働のため、今後もユンボで工事することを検討する。</p>			
<p>行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年9月5日(土) 場所:河辺市民球技場前の河原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	河辺の川原で自然体験および水生生物観察、安全教室、広場でタッチングプールで生き物と触れ合う
(5) 事業経費(決算額)	244,475円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム 6名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめ環境市民会議水辺チームから協働提案があったことを契機に、平成19年度から協働を行っている。「ふるさとの川プログラム」の親水事業の拡大にともない、現在の形に移行。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。比較的連携がよかったと思います。</p>			
<p>行政側:当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:年々参加者が増え、喜ばしいことですが、ガサガサで使う網が子ども全員に行き渡っていないことがとても残念。平成26年は68名、平成27年は74名。子ども全員に行き渡るよう行政側での準備をお願いしたい。</p>			
<p>行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもカヤック体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年7月25日(土) 場所:釜の淵プール下河原、釜の淵市民館
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	カヌー(カヤック)操作の入門コースと安全指導
(5) 事業経費(決算額)	200,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:4人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業のプランニング、カヌー協会との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、順調に申込みがあった。また、釜の淵市民館の利用(座学および休憩所)など、募集および施設利用の両面において、協働効果は絶大であった。</p>			
<p>行政側:青梅市では複数の団体と、上流の御岳渓谷から下流の河辺川原までの間で様々な親水事業を展開しているが、中でもカヤックという専門の用具と指導者を要する当該事業はとりわけ異彩を放っており、親水事業の多様性という観点から重要な事業であり、実績から見ても充分効果的だと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:午前中の座学では、スクリーンを使用して、安全学習を行っているが、実際、川の中央は流れが速く、特に増水時には、流されるリスクが高まるので、青梅市カヌー協会の十分なスタッフ(指導員)を配置し、安全確保については、引き続き最大限行っていきたい。年々、親子での参加を希望する方が増えている。</p>			
<p>行政側:運営面においては、美しい多摩川フォーラムとカヌー協会の指導により、効率的に実施されていると考えている。ただし、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年8月21日(金) 場所:奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
2継続事業	
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	炭焼き座学⇒竹割り⇒竹の窯詰め⇒やまめ・ニジマスつかみどり体験・魚の解剖学習⇒昼食⇒着火・中止め～燃焼動向確認⇒水辺の安全教室⇒ライフジャケット浮力体験⇒川遊び体験
(5) 事業経費(決算額)	76,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:4人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側：青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、1日で定員オーバーとなった。また、ライフジャケットを貸し出していただくなど、協働による効果は絶大であった。			
行政側：内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き釜を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側：昼食は、お弁当、お茶を提供しているが、ゴミは参加者各自で持ち帰るようにお願いし、ゴミの少量化に協力してもらった。			
行政側：事業の細部まで行き届いているが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2015	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月10日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	稚鮎の放流とヤマメのつかみどり、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏らの講義を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	81,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数:14名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:天然鮎の遡上に関する問題点、多摩川の自然に関する問題点を実際の川を目の前にして説明し理解してもらう効果はあがってきていると思う。また、行政側の備品提供等、暑い中での会場設置などの助成があればこそ継続できております。会としても大変感謝しております。</p>			
<p>行政側:市民にとって身近な多摩川における現状と、天然鮎の遡上に関する課題といった、普段耳にすることのない問題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きいと考える。また、会の持つマンパワーと豊富な人材は、当日の運営に安定感を与えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:参加者の安全管理は第一に考えねばならぬものと思います。ライフジャケットを支給して戴いてもいますので、川での安全な遊び方、注意すべきところなどの指導にも力を入れていきたいと思います。なぜ、鮎は川を遡上しなければならないか(生命のサイクル)など、なぜを説明して理解してもらうようにしたい。また、東京都青梅市には身近に豊かな自然が存在し、人が棲みたくなる環境が有ることも大いにアピールしたい。</p>			
<p>行政側:当日は、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川の魚を釣ってみよう「子どもの昔ながらの釣り体験教室」	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年8月9日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	子どもでも簡単に釣れる釣りに挑戦。懐かしいアンマ釣り体験と釣れた魚の説明を行った。
(5) 事業経費(決算額)	10,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:参加親子に今ではあまり行わなくなった昔懐かしいアンマ釣りを教え、餌の取り方から釣り上げるまでを実際に行ってもらい、川の遊びの楽しさ、良好な自然が人にもたらしてくれる恵みを良く理解してもらった。また、親子で協力して釣り方を教え合い、解らないことは子供たちが自主的に会員に聞いて釣りを楽しんでもらえたことは、親子プラス他人とのコミュニケーションがはぐくまれた事業であったと思う。</p> <p>行政側:昔懐かしい釣り体験は初めての企画であった。参加者全員が魚を釣ることができ、大自然の中で遊びながら、魚をはじめとする生き物について学習することができ、大変有意義な教室であった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:より多くの市民に参加してもらい、釣れる魚は自然繁殖していることも理解してもらい、自然の恵みの有難さ、尊さを感じてもらいたい。それには楽しむことだけでなく、守る人も居て、それも必要なことであることも教えたい。常に変化する川の状況に対応し、安全第一を考え事業を続けていきたい。</p> <p>行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	親子さかな釣り体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年10月25日(日) 場所:奥多摩フィッシングセンター
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	溪流釣りの未経験の参加者に、しかけ作りから一つひとつ順に指導して、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏の講義、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	185,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:12人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:協働事業として市民に対して事業を行なうことにより、行政、参加団体が自分達の事業分担をしっかりと行なう事が出来、その事業で伝えたい事、行動してもらいたいことなど参加市民により強く伝えられ、さらに広域に浸透し、効果をあげる事が期待出来る。魚を釣ることにより、魚は命ある動く生き物であるという事を竿から感じてもらえたと思う。</p> <p>行政側:協働団体の持つマンパワーは、当該事業にも十分に発揮されており、指導者の人材も豊富である。このことは、当該事業の安全管理および参加者への対応も十分になされるということであり、行政だけでは不十分な点を協働団体がフォローする、理想的な形といえる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:想像した以上に指導者に頼る参加者が多いので、親子魚釣り教室となっている様に親子の絆を強める為の事業でもあるため、要点は教えてもその後は親子で協力して魚を釣るようにしていきたい。釣り上げた魚を食べることにより、人間は生かされていることもさらに強調して、命の大切さも伝えていきたい。自然豊かな青梅の多摩川も行政、漁協の努力により、魚が棲みやすくなっていることも良く知ってもらいたい。</p> <p>行政側:無原則に竿の持参を認めると、「教室」の趣旨から離れ、単なるレクリエーションになってしまうことが懸念されるため、使用する竿の数は親子で1本を基本とした。 今後も、自然環境への関心が深まるよう、事業内容について充実させていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「じゃぶじゃぶ川で遊んじゃおー」川は生き物のすみかだ！遊び場だ その1	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年6月20日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋上流
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした自然体験(水遊び、魚とり、虫捕りなど)。
(5) 事業経費(決算額)	65,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員8名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 広報による募集は広く行きわたる。長期予報では傘マーク、当日は曇り空で肌寒い日であった、参加者があるのか？心配の極み、しかし時間とともに集まり40人程集まった。主催者側としてみれば一安心。</p>			
<p>行政側：曇り空にも関わらず、多くの方々が参加し、霞川の関心の高さを窺えた</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側： 課題1・へび・蜂などへの対応・・・会場は草藪が多いへびや蜂はつきもの噛まれた時、刺された時の対策をしっかりとしておく。 課題2・トイレ・・・会場近くのグラウンドのトイレをお借りするが、100m以上離れており、子ども達には大変、今回のように気温の低い中に水の中、生理現象も近い、レンタルトイレの検討も必要ではないか。</p>			
<p>行政側：霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだで遊ぼうin霞川part7	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年7月25日(土) 場所:今寺天皇塚水田近くの霞川(天本橋周辺)
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	手製のいかだで川を上ったり下ったり、子どもたち自身でいかだを操る川遊び。
(5) 事業経費(決算額)	93,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、いかだ作りと操作指導講師ほかボランティア含め10名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側：(1)参加者募集が広報で行えることから参加者も集まりやすい、今回も定員に達する応募があった。(当日数人の不参加はあったが)(2)経費について、いかだの材料も消耗品的な材料もあるが、経費助成があることは心強い。(3)今年も第三中学校の生徒さんがボランティアとして参加してくれましたが、市との協働ということで学校側も気持ちよく引き受けてくれている。これは消防署の協力にも言えるかもしれない。</p> <p>行政側：事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。実施団体である霞川くらしの楽校は、霞川とその周辺の自然や文化、歴史等を題材に、地元に着した様々な事業を展開中であり、地域の認知度も高い。今後も市民の視点に立ちつつ、市民団体ならではの斬新かつ有益な事業提案に期待している。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側：課題1・河川敷の草刈り・・・子ども達の安全対策の為、会場になる河川敷全面の草刈りを西多摩建設事務所さんをお願いしているが、今回草刈りの影響で「カメムシ」が川から畑に移動し困ったと農家の方から苦情が申しこまれた。因果関係は判らないが今後草刈りについては時期・刈り取りの方法など話し合う必要がある。課題2・異常気象の関係からか、記録的な暑さが続き、当日も厳しい暑さであった。今後も熱中症対策に万全を期する必要がある。</p> <p>行政側：夏場の水辺での事業になるため、安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業を参加してもらうための工夫が必要であると感じた。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「川で何でも遊んじゃおー」川は生き物のすみかだ！遊び場だ その3	担当課	環境政策課管理係
------	----------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年9月12日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋上流
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした遊び方自由の水辺体験。
(5) 事業経費(決算額)	14,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、ボランティア含め7名
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側: 広報による宣伝の力は大きい、昨年参加した人たちも再開催の報に多くの参加者は今回も保護者を含めると100人を超えた。			
行政側: たくさんの参加者が集まった。終了時間まで遊んでいた光景をみると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側: 課題1 駐車スペース・・・他の協働事業でも同じであるが、会場が不便なところである、難しい問題ではあると思うが駐車場について考えたい。課題2: トイレ問題・・・これも他の事業に共通することだがトイレが遠く不便である、何か解決はないものか。(レンタルトイレ) 課題: 3 熱中症対策・・・夏場の炎天下での活動、極暑対策としてタープを調達したがもうすこし広い面積に日陰をつくる必要がある(タープの追加)。			
行政側: 霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」(5月) 飼い主のいない猫のための「里親会と相談会」(11月)	担当課	環境政策課管理係
------	---	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月24日(日)、平成27年11月28日(土) 場所:青梅市役所西側(正面玄関前)
2継続事業	
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	里親会と相談会を実施する。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、いのちを考える会・青梅 参加人数: 5月24日 105人、11月28日 82人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 当日の運営 行政側: 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側 市民全体に対する里親会へのアピールが出来た。			
行政側 ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 合同里親会への周知がもう少し出来ないだろうか。 団体の中には幼すぎる猫を出しているとの意見がでた。			
行政側 周知方法を検討し、より多くの市民の参加を期待したい。また、事前の打ち合わせを密にし、市と協働の里親会でのルール作りも必要と考える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護啓発映画上映会	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年3月27日(日) 場所:青梅市役所2階204～206会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(4) 実施内容(実績値等)	ドキュメンタリー映画「犬と猫と人間と2 動物たちの大震災」の上映と上映後のミニ講演会「映画の講評と飼い主のいない猫の話」を催した。上映後、参加者に各団体の紹介を行った。
(5) 事業経費(決算額)	40,949円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、いのちを考える会・青梅、西多摩猫を救う会 参加人数: 上映会57人、ミニ講演会51人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	飼い主のいない猫についての周知も目的としているため、青梅市飼い主のいない猫譲渡事業補助金の交付対象団体であるおうめ猫の会と協働で実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 映画上映等の後、各団体の紹介を行った。 行政側: 上映会ならびにミニ講演会の設営、実施

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	2
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 今回の映画会には多くの市民の方に御出席いただきました。出席された市民の方は映画を見られれてとても感動されたと思います。 また映画だけでなくミニ講演会を行ったことにより、動物愛護の啓発が出来たと思います。</p>			
<p>行政側 ボランティア団体と協働で実施することで、市民に動物愛護について、また、市内の猫の問題に目を向けてもらう機会が持てた。各団体の活動内容も紹介することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 会の最後に口論があったのはとてもイメージダウンだったと思います。映画会と講演会は別々に行った方が良かったです。 また内容も地域猫等もっとタイムリーな内容にすべきです。</p>			
<p>行政側 映画会で上映する映画の選定や映画会以外に講演会もやるべきかといった、会のプログラムを決定するのが難しい。今後もボランティア団体の意見を聞いてプログラム等を選定していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:1回目 平成27年5月3日～平成27年7月31日 2回目 平成27年10月11日～平成28年2月29日 場所:市内各所
2継続事業	
(2) 事業の目的	公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	実施予定頭数 1回目 105頭、2回目 120頭
(4) 実施内容(実績値等)	手術実施頭数 1回目 99頭、2回目 117頭
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:いのちを考える会・青梅、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、おうめ猫の会 参加人数:
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠が利用できることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側: 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 野良猫への施術の際に費用の心配をしないのできる。 また行政枠ということで市民への猫に対する意識が高まりました。</p>			
<p>行政側 行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施することができ、青梅市の野良猫対策の大きな前進となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 行政の担当者が変わったので、チケットを発行していただける法人との関係が課題である。 また行政側は直接現場に行ったり、直接市民にチケットを渡す等の積極的な介入をすべきである。</p>			
<p>行政側 今後とも協働事業を進めていく上では、より一層、行政とボランティア団体との意見交換を行っていく必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月18日(土)、6月20日(土)、8月23日(土)、12月12日(土) 場所:青梅市新町市民センターほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市の財産である、青梅市の自然について、市内の子どもたちや保護者に伝え、自然環境についての理解、環境活動への視野を広げる
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自然観察、農業体験、リサイクル活動等を通じて、自然環境についての理解を深める。
(4) 実施内容(実績値等)	平成27年度は4回実施し、子ども78人、保護者54人が参加した。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 民立おうめ楽校 参加人数: おうめこどもエコクラブ 各回3~5人
(3) 協働の提案者	2.団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講座当日の事前準備・運営、年間計画の立案、エコクラブ組織の運営 行政側: 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 新町市民センターのほか、会場をおさえるとき、スムーズに会場をおさえることができました。広報していただいたおかげで多くの青梅市民に周知ができました。また、東京都代表で全国大会出場もありますが、青梅市外でも同じエコ活動をしている団体に青梅でエコの活動をしていることを知っていただくこともできました。新規の会員こそ少ないものの既存会員の方たちのつながりが強くなりました。これも青梅市と協働で実施しているため、安心して参加できているからこそと言えます。講師の方たちも青梅市と協働をしているため、信頼して対応していただきました。事前準備も臨機応変に対応していただき大変助かりました。また、当日の講座のとき、効率的な受付の対応と講座の流れに合わせた丁寧な対応は参考になりました。</p>			
<p>行政側 団体と協働することにより、子どもに対する環境教育を実施することができ、有意義であった。おうめこどもエコクラブのスタッフは、優秀かつ活動的で人間味があり、質の高い事業が実施できた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 昨年度、新規の会員数が少ない結果から新しい会員を増やすため、新町の学校を中心にエコクラブのチラシを配布をしていきたいです。現在の対象となる会員の数が27名、これを年度内に倍の会員の数にすることを目標にしています。昨年度までの担当者が引越したため、遠く離れてしまいました。そのため、今年度は会員の保護者中心の体制で運営をしています。情報の伝達ミスや講座までの事前準備に不慣れな点があり、うまくまわしていきません。手順書・チェックリストの作成などを実施し、保護者の方にわかりやすく運営に関われるよう改善していきます。今年度の終わりには保護者の方を中心の体制で団体を支えるかたちをとり、みんなで支え合いながら子どもを地域が育て、青梅市の環境を守っていくかたちを最終的には実現したいです。また、青梅市の持っているネットワークをもっと活かし、講座内容や講師の選定をより市に密着したものにし、青梅市のことをより学び考えられる講座を引き継ぎ実施したいと思います。また、青梅市外の方から青梅での環境活動は積極的と評価をいただいております。青梅市外への青梅の環境発信と青梅の環境を周知できる講座をしたいと思っております。</p>			
<p>行政側 今後もおうめこどもエコクラブと協働で、子ども向けの環境教育を実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「ごみ収集カレンダー」の音声化事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	--	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日 場所:特になし
2継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に「ごみは、資源である」という認識をしていただくため、青梅市における正しいごみの分別方法とリサイクル方法についてを音声版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成23年4月発行の「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」の変更箇所および平成27年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声版(デージー図書)の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績3人。
(5) 事業経費(決算額)	1,512円(音声用CD-R)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:朗読ボランティアグループみすず会 参加人数:11人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	朗読ボランティアグループみすず会からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:CDに音声データを収録し、行政側に提供する。 行政側:広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へダビングしたCDを配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用者からは、ごみの分別について具体的な例が詳しく説明されていて、わかりやすいとのことでした。</p>			
<p>行政側 視覚障害者向けとして点字版のカレンダーも作成、配布しているが、点字はかなり勉強しないと読むことができなく、読める方は視覚障害者の1割程度とのことである。それに対し、音声版では、CDを専用の機器またはパソコンで読み込めば簡単に聞くことができ、より多くの視覚障害者が利用できる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 CDの原盤を製作するのに掛かる作業料、インク代等を市側で負担して頂きたい。また、このCD製作は今後も継続していきたいので、みすず会としても勉強会を重ね後進を育てていきたいと考えています。配布人数も増やしたいので、引続き市側も呼び掛けをお願いしたい。</p>			
<p>行政側 みすず会および利用者の意見も聞き、問題点については改善に向け努力していく。さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	-----------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 講習会:平成27年5月22日、23日、10月16日、17日 勉強会:平成27年6月20日、11月20日 場所: 講習会:市役所玄関前ロータリーおよび2F喫茶コーナー横テラス 勉強会:2F会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	家庭から排出される生ごみをダンボールコンポストを利用してたい肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	モニター申込み 計 54 人
(4) 実施内容(実績値等)	参加者に対して家庭で簡単にできる生ごみたい肥化方法を直接指導し、その後、勉強会、電話相談等でフォローする。これにより生ごみの減量、資源化を促進する。
(5) 事業経費(決算額)	92,130円(ピートモス、もみ殻くん炭等消耗品)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・生ごみグルグルネット 参加人数:6人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	たい肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会・勉強会の進行・会場準備 行政側: 広報おうめ、市ウェブサイトによる周知、消耗品等の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市が参加者を募集し、市役所で講習会等を行うことで安定した応募数がある。市民の希望による、出前講座の開催もあった。</p>			
<p>行政側 毎年コンスタントに応募があり、アンケート回答でも多くの方が継続したいと考えており、生ごみの減量、資源化に有効な事業である。 また27年度は講習会参加者の方が音頭を取り、近所の方を集めていただいて出前講座の開催があった。市側からの発信でなく、市民の方からの依頼があったことに効果があったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 生ごみたい肥の実験畑で、講習会参加者がダンボールコンポストで作ったたい肥の受入れを行っているが、受入れ件数が伸び悩んでいる。今後は、マンションなど、自宅で使い道のない層への講習会参加者を確保するとともに、学校・自治会などへの出前講座を通じ、幅広い層への普及活動に努めたい。</p>			
<p>行政側 平成26年度から平日にも講習会を実施したが、27年度は従来行ってきた土曜日の参加者数が少なくなった。今後、両日ともコンスタントに参加希望者が集まる方策を検討したい。 また講習会のアフターフォローとしての勉強会についても、より多くの参加者が来るような方策を検討したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日 場所:特になし
2継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に、青梅市における正しいごみの排出日について点字版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成27年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。 実績3人。
(5) 事業経費(決算額)	4,055円(点字プリンター用紙)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅点訳グループ 参加人数:8人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側:広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側 希望する人に期限までに作成し、届けることが出来た。			
行政側 視覚障害者の中で点字を読める方にとっては有益である。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 自分達で出来ること、役割は出来ていたと思うが、利用者の方々にさらに提供できることを行政側と話し合っていきたい。 リサイクルハンドブックの点字版が有ることを周知させて欲しい(広報おうめなど)。			
行政側 点字プリンター用紙の費用については市の負担とした。 点訳グループおよび利用者の意見を聞き、問題点については改善に向け努力していく。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢介護課 高齢者支援係
------	------------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日 場所: 市内一円
2継続事業	
(2) 事業の目的	市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	民生児童委員や地域住民により、地域に住む高齢者等の見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。
(5) 事業経費(決算額)	必要経費はありません。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 民生児童委員合同協議会 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	民生児童委員は、地域に密着して活動しており、地域における高齢者等の社会的弱者をよく把握しているため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域で見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側: 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 民生委員や地域の住民が見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う</p>			
<p>行政側 民生児童委員や地域住民の協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、地域住民自身が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力のアップや地域のつながり強化が図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 民生委員に依頼されることが多くあり、見守り活動に取り組む時間が少なくなっている。 平成28年度は、民生委員の一斉改選の年度に当たり、退任を希望する民生委員が多くおり、その後任の人選が、難航している。</p>			
<p>行政側 民生児童委員や地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるが、同時に民生児童委員の負担軽減を行う必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	--------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年9月から11月 3か月間 場所:市内の自治会館
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	上記(2)事業の目的に同じ
(4) 実施内容(実績値等)	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費(決算額)	平成27年度支出済額 0円委託料(その他委託料)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 高齢者クラブ(3か所) 参加人数:延165人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 会員への周知、会場準備 行政側: ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定(握力、開眼片足立時間、10m歩行速度)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。</p>			
<p>行政側 健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。</p>			
<p>行政側 介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	----------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月から3月 場所:利用を希望する団体・グループ等が確保した会場
2継続事業	
(2) 事業の目的	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	サポーター数 延べ1,113人
(4) 実施内容(実績値等)	1. 認知症の基礎知識(認知症とは何か、認知症の症状とは)、早期診断・治療の重要性、権利擁護等 2. 認知症の人への対応、家族への支援、サポーターとしてできること等
(5) 事業経費(決算額)	平成27年度支出済額 20,644円需用費(消耗品費)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:市民の地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者等 参加人数:延べ1,113人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:	平成18年7月厚生労働省老健局長通知により、本事業の推進を図るため。 団体からの提案:参加団体の年齢層により、研修内容を変えて欲しい。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:研修を希望する団体・グループ等は、申込および会場の確保や準備、機材の用意等を行う。 行政側:キャラバン・メイト講師派遣、事業実施計画申込と副本の申込

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくり。			
行政側:今後も認知症サポーターが増えるよう呼びかけていく。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:特になし			
行政側:今後も認知症サポーターが増えるよう、小・中学校、総合高校、多摩高校に呼びかけていきたい。また、商店街や企業、介護保険施設へも呼びかけていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	介護サービス相談員派遣事業	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	---------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月から3月 原則として毎週水曜日実施 場所:介護保険施設等または居宅
2継続事業	
(2) 事業の目的	介護保険施設等または居宅を訪問し、介護サービス利用者等の話を聞き相談に応じる等の活動を行う相談員を派遣することにより、介護サービスの実態を把握し、利用者と事業者の橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質的向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	延べ167回 564人
(4) 実施内容(実績値等)	1. 介護保険利用者および家族からの相談等に応じるため、介護保険施設等および居宅を訪問すること。 2. 介護サービス提供事業者等への働き掛けをすること等。
(5) 事業経費(決算額)	平成27年度支出済額 1,238,465円報酬(非常勤職員報酬)8,112円旅費(費用弁償)65,880円負担金、補助および交付金(負担金)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:一般市民公募 参加人数:5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成12年4月介護保険法が施行され、介護サービス適正実施指導事業の実施を図るため。	団体からの提案:なし
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:介護保険施設等または居宅を訪問し、介護保険利用者および家族からの相談等に応じる。 行政側:介護サービス相談員が、相談等に応じた内容について、困難事例等施設やケアマネジャーに対し対応報告することにより解決する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:介護保険施設等においては、介護サービス利用者の不安、不満、疑問等にきめ細かく対応することで、苦情に至る事態を未然に防止するための働きかけを、介護サービス提供事業者へ行うことができる。また、利用者と事業者へ橋渡しを行っていきることにより、介護サービスの改善が図られ、介護サービスの質の向上・適正化に貢献することができる。</p> <p>居宅では、利用者の孤立や不安の解消を図ったり、適切な情報提供を行うことで介護サービスの適正な利用につなげることができる。</p>			
<p>行政側:介護サービス相談員について周知するとともに、特に居宅訪問を増やせるよう、強化していきたい。月1回開催されている連絡会(相談員、事務局)についても、報告以外に情報共有・提供の場とし継続していきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:介護サービス相談員の研修は、年1回現任研修がある。それ以外に市職員による、介護保険サービス全般、介護保険制度、介護保険料、関連機関(後期高齢者医療制度、国民健康保険制度、生活保護法等)についても行っていきたい。</p>			
<p>行政側:介護サービス相談員のスキルアップ、共有すべき事項もあるため、相談員、事務局、関連機関との連絡会も必要に応じて行っていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	--------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成18年8月から年2回開催 場所:青梅市役所会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	あり。高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談ができ、今まで課題が実現化する基盤ができた。
(4) 実施内容(実績値等)	1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費(決算額)	委員報償金 23,000円(予算額23,000円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:社会福祉協議会の代表1人、民生児童委員会合同協議会の代表2人、東京弁護士会の代表1人、ケアマネジャー連絡会の代表1人、人権擁護委員の代表1人 参加人数:6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側:体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側: ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。			
行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。ケア会議の開催時出席 ②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 : 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。			
行政側 : 虐待の早期発見、虐待通報の徹底化により、早期に関係機関が介入する体制を強化でき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。①緊急一時保護先の確保 ②高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	担当課	障がい者福祉課 庶務係
------	----------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年11月21日(土) 場所： 新江ノ島水族館
1単年度事業	
(2) 事業の目的	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市障害者団体連合会との協働事業とすることにより、よりよい見学先を選定することで、多くの障害者の参加を得る。
(4) 実施内容(実績値等)	大型バス2台を借り上げ、新江ノ島水族館を見学した。90人の参加を得た。
(5) 事業経費(決算額)	参加者負担額:117,688円(入場料、保険代、車中お茶代等) 青梅市負担額:279,480円(大型貸切観光バス代(2台分)、有料道路代)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市障害者団体連合会 参加人数： 2名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先の選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていた。このため、平成25年度からは協定を締結し、協働事業として位置付けた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 見学先の選定、参加者の受付、当日の運営等 行政側： バスの借上げ、広報おうめへの記事掲載、申込用紙の作成、参加者の受付、しおりの作成、当日の運営、清算業務等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 他障害の方や家族で交流する行事はとても必要であり、障がい者福祉課と障害者団体のお互いの交流が有り、話し合いも有りで、多くの人に参加でき、当日の進行も障がい者福祉課と障害者団体との交流がスムーズに協働でできました。</p> <p>行政側:限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定および行程案を作成いただいたことにより、多くの参加者を得ることができた。また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 この行事を楽しみにされている方が多いと聞いていたので、申し込んだ方が一人でも多く参加していただけるように市で2台のバス、参加者でもう1台のバスを負担してはという提案も快く受けただけました(実際は2台で済んだ)。土曜日に実施日を設定しようと仕事で行けない方がいることになるので、日曜日に実施するのが良いと思いました。今回行先も一か所だったので、みなさんゆっくりと楽しめたという感想をたくさん頂きました。</p> <p>行政側 本事業は、隔年で「身体障害」か「知的・精神障害」がある方を対象に実施している。平成27年度は「知的・精神障害」がある方を対象に実施したが、重複して「身体障害」があり、昨年度も参加した方がいたため、他の参加者から2年連続して参加できるのは不公平ではないかという声があった。このため平成28年度以降は、原則、連続した参加は不可とすることとした。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お助けマン養成講座開催	担当課	障がい者福祉課相談支援係
------	-------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年7月27日(月)、平成27年11月24日(火) 場所：市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅市地域自立支援協議会の「障害者への理解と啓発部会」が、障害者に手を貸したいと思っても方法がわからずにいる方々、助けを求めたくても求められない方々の意識の掘り起しをすることを目的に「お助けマン養成講座」を実施しました。コンセプトは「輝くブルーハートキャンペーン」とし、市民のハートを開く、青梅の心＝ブルーハートにちなみ、付けられました。青梅市社会福祉協議会や市内の障害者支援施設の協力のもと、年2回実施し、1回の定員を30名とする。講座修了者には特製キーホルダーを渡し、それが目印となって、障害者の方が声を掛けやすいように配慮している。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間60人を目標に養成する。
(4) 実施内容(実績値等)	第1回27名 第2回21名
(5) 事業経費(決算額)	キーホルダー購入経費 27,324円、キーホルダー用ビニール袋 165円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市障害者地域自立支援協議会、青梅市社会福祉協議会(協力：友愛学園成人部、東京青梅病院、青梅市自立センター) 参加人数：第1回 27名 第2回 21名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市は施設や病院が非常に多い地域であり、その施設等も歴史が古い。それは専門性の高い熟練した福祉職が多いということであり、それは青梅市の地域資源であると考え、その資源活用を頼みとして企画した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、講座講師、体験講師、キーホルダー購入準備等 行政側： 講座開催場所確保、開催通知送付、広報周知、キーホルダープレゼンター等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:協働で開催することで、市民の要望を把握しやすく、要望を反映させる形でスムーズに事業が実施出来た。また、多くの市民や市内施設の職員に参加いただき、障害者の理解の推進に寄与出来た。			
行政側 協働により、市民からの意見を反映して事業が実施できた。また、関係者からの声かけにより、多くの市民に参加していただき、障害者の理解の推進に寄与した。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:今後は、3年間に当講座に参加して下さった方々のフォローアップ講座を検討し、障害者理解の推進に努める。			
行政側 今後は、市内の企業やスーパーなどの大型販売店、JRや学校にも参加を呼びかけ、多くの市民の方に障害者理解の推進に努める。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	平成27年度 中級手話講習会	担当課	障がい者福祉課 認定サービス係
------	----------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年5月～33回(行事等含む) 場所： 青梅市福祉センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	1. 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること 2. 日常会話の技術を習得する。ろうあ運動の歴史および聴覚障害者の活動について学ぶこと 3. 手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進すること
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	中級手話講習会終了が上級手話講習会(定員20名)に移行し、手話サークル等に属し活動することで、聴覚障害者の社会参加等に寄与していく
(4) 実施内容(実績値等)	中級手話講習会に30名の受講者があり、20名が終了した。(30回の講習のうち8割の受講が必要)
(5) 事業経費(決算額)	150,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市聴覚障害者協会 参加人数： ろう講師1名 ろうアシスタント1名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 講習会の運営 行政側： 会場確保、講師報奨金の助成

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 青梅市聴覚者協会にとって心配事であった会場確保についても、協働事業により講習会会場の予約手続きに協力が得られ、手話講習会をスムーズに行うことが出来た。手話講習会については、当協会との協働活動が定着してきています。</p>			
<p>行政側 初級講習会修了の受講生の多くが、手話に興味を示していただき、中級手話講習会に参加した</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 障がい者福祉課の手話が出来る職員の異動で相談等のコミュニケーションが困難であり、手話が出来る職員が一人は所属していて欲しい。平成27年度よりプロジェクター等の借用費として3,000円の出費が新たに増えた。</p>			
<p>行政側 中級手話講習会修了者が上級手話講習会に移行し、手話サークル等に所属し、ボランティア等として参加していただける方を増加させていく</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	第46回おうめ健康まつり	担当課	健康課 健康推進係
------	--------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:27年5月31日(日) 場所:青梅市役所(1階ロビー、2階会議室等)
2継続事業	
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自分の健康は自分で守るという自覚もち、健康づくりに取組むためには保健衛生知識が必要である。おうめ健康まつりの企画において医療関係者による保健衛生知識の普及向上を行うことで、より効率的に市民の健康づくりが促進される。
(4) 実施内容(実績値等)	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬・ペットなどの相談、血管年齢測定、ヘルスチェック、生活習慣病の予防、栄養、転倒予防教室、ウォーキング教室、青梅の森企画青竹踏みづくり教室、健康体操、親子ふれあい体操教室等や医師会、歯科医師会、薬剤師会による講演会を実施した。※延べ参加人数5,867人
(5) 事業経費(決算額)	有り 医師等報償金 389,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:【共催】青梅市三師会 【協力】青梅市薬業会、青梅市接骨師会、(社)東京都獣医師会多摩西支部、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩保護司会青梅分区、西東京農協組合、青梅市民生児童委員合同協議会 参加人数:【共催】青梅市三師会(16人) 【共催】青梅市薬業会(13人)、青梅市接骨師会(12人)、東京都獣医師会多摩西支部(3人)、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩(7人)、西多摩保護司会青梅分区(7人)、西東京農協組合(2人)、青梅市民生児童委員合同協議会(14人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	昭和45年から実施しており、理由は不明
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	
1. 計画段階	その他の場合具体的に(昭和45年から実施しており、理由は不明)
(6) 役割分担	市民側: 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側: 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 来場者に対し専門的(医師等)な立場から情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。			
行政側 より多くの来場者を確保するために、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 来場者の健康状態を把握・分析および相談等を行い、更なる健康づくりが向上するよう検討していきたい。			
行政側 より多くの来場者を確保するために、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時（年末年始を除く） 場所： 永山ふれあいセンター内
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。 (利用者数 3,410人)
(5) 事業経費(決算額)	2,827,600円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人はあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 利用者同士やスタッフの関わりの中で 子育てに関する情報を共有することができ子育ての安心につながった。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 より良い活動をするために子育てに関する情報や知識を積極的に学び実践につなげる。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てひろばB型事業(にこにこ広場)	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	--------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週水、木、金曜日 午前11時～午後4時（年末年始を除く） 場所： 東青梅1-7-7 青梅こども未来館
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅こども未来館「にこにこ広場」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。(利用者数 1,677人)
(5) 事業経費(決算額)	1, 589, 890円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公募により、平成24年10月から市内NPO法人こども未来に事業委託し、ひろば事業C型として実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「にこにこ広場」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <p>① 毎月発行される「青梅子育てひろば 遊びのホットステーション」で市内全域の広場の行事予定が把握でき、また、各種イベントのポスターを掲示したり、配布用のチラシを来館者に提供できたことで、利用者の子育て支援関連の情報収集に役立てる事ができた。</p> <p>② 健康センターで行われる乳幼児健診の前後に、にこにこ広場を利用する親子が増えてきている。健診を受ける際の不安な気持ちを、利用者同士で話したり、スタッフに打ち明けることによって、解消することができた。また、健診の前、後に気軽に立ち寄り、授乳、おむつ替えをしていく親子もあり、気軽に立ち寄れる乳幼児母子の居場所となっている。</p>			
<p>行政から</p> <p>乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施することにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <p>① 子どもの発育についての相談が多い為、専門機関との連携の必要を感じる。</p> <p>② 立地条件が良い為、市役所や健康センターの行き帰りに、授乳やおむつ替え、時間調整や気分転換の為に利用する場所として好評を得ている。にこにこ広場が子育て中の親子に周知され定着してきただけに、今回の閉鎖は非常に残念である。</p>			
<p>行政側</p> <p>市役所にも近く、またさまざまな行事なども行い、利用者からも好評を得ていたが、8月で廃止される予定となってしまった。短い期間であるが、最後まで利用者へのより良いサービス提供に努め、にこにこ広場の重要性をアピールしていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容(実績値等)	子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 827人 利用件数 1,675件)
(5) 事業経費(決算額)	6,659,704円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： (会員)相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施(NPO法人)事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 個々に異なる子育て家庭のニーズに対応して、きめ細かな援助を心がけ実践した。地域の商店や医院にリーフレットの配置を依頼したり、3、4か月健診時に健康センターにて配布するなど、協働の利点を活用できた。子ども家庭支援センターからの紹介ケースなど、報告と情報交換を心がけより良い援助を目指した。</p>			
<p>行政側 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 青梅市の地域性(地理的特性)に起因する、援助困難なケースについて、利用者の立場に立って柔軟な援助ができるよう、より一層の理解と協力を頂きたい。 数値に表れない、援助の質的なものにも着目し、より充実した活動ができるよう、連携を図っていきたい。</p>			
<p>行政側 子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度・利用者増加に向けた周知方法の検討が必要である。 個々の事例について適切な対応を図っていけるよう支援に努めていく。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てネット事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所： 事務局 勝沼3-78 KTホール2F
2継続事業	
(2) 事業の目的	市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の子育て支援サービスや子育てに関連情報をホームページを通じ、広く分かりやすく提供し子育て支援をする。
(4) 実施内容(実績値等)	子育てに特化したホームページの開設および運営(年間アクセス数 327495 件)
(5) 事業経費(決算額)	1,634,870円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数:HP担当スタッフ15名+記者スタッフのべ40名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。 行政側： ホームページの基本管理、市の情報提供等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民が求めている、子育てに関する情報を記載できる。青梅市広報に記載しづらい、または出来なかった民間や市民グループ情報を提供しやすい。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一方的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を楽しく伝えることができた。また、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 ホームページは、時代とともに、プログラムの改善が行われたり、新しい機能が開発されていく、それを利用する経費が必要になる。また、アクセス数を増やす(利用者)取り組みとして、子育て中の方の要求や要望をリサーチする事が大切である。</p>			
<p>行政側 ホームページの充実、特集記事等の充実や掲示板などによる利用者の参加増加につながるよう取り組んでいく。 受託者側と「子育てねっと」を活用した子育てサークル等のネットワークの育成が図れるよう協議していく必要がある。アクセス数が前年と比べて減少しているので平成26年度実績並みとしたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2015	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年11月1日 場所： 永山ふれあいセンター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4) 実施内容(実績値等)	異世代交流コーナー、親子交流コーナー、ゲームコーナー、パフォーマンスステージ、自然体験コーナー、模擬店コーナー(入場者数 1, 301人)
(5) 事業経費(決算額)	370,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：子どもふれあいフェスタ2015実行委員会(NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体) 参加人数：実行委員参加人数17名(当日は、高校生有志の協力)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側： 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 施設の利用や備品の借用がスムーズにいく。補助金によりプログラムが充実できた。産業祭の駐車場が利用でき相互の事業の参加者増加につながっている。行政担当者の委員会参加で、市民団体の状況や課題を共有できるので、いろんな面で相談がしやすくなった。</p>			
<p>行政側 子育て支援事業(親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど)を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 補助金が年々減少するので、経費の生み出し方やプログラムのあり方を検討した。ふれあいセンターの閉鎖に関する対策が必要。</p>			
<p>行政側 子どもたちや子育て親子の交流だけにとどまらず、異世代間交流の拡大を図っていくとともに、地域の伝統の伝承も考慮した事業実施の検討が必要と考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第2土曜日 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児親子のゆったりのんびりした遊びと情報交換の居場所作り ・ 学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくり
(4) 実施内容(実績値等)	NPO法人青梅ファミリーサポートはーと、NPO法人子ども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供(利用者数1,537人)
(5) 事業経費(決算額)	1, 059, 559円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： ローテーションにより開館中、常時2名配置(土曜日のみ3名配置)
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 ・開催場所や予算が確保できた。 ・市民センターという身近な場所に子どもたちが集える場を低予算でつくることができた。			
行政側 NPO団体の持つ得意分野を生かし、魅力ある子育て支援事業を行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ・安心安全の居場所づくりをする為に、小学生の来られる曜日を増やしていきたい。 ・利用人数が多くなった場合、キッズルーム以外の場所も利用したい。(外や2階など) ・利用人数増加を目指し、スタッフの人数を増やしていきたい。			
行政側 今後も乳幼児の親子や小学生の安心・安全の居場所作りの場を提供できるよう心がける。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課
------	----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年2月7日(日) 場所:総合体育館
2継続事業	
(2) 事業の目的	青少年が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、親子のふれあい、異年齢交流や地域交流を通じて、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	幼稚園・保育園児、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計100程度の出場チームにより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付・接待・放送・選手・模擬店・会場・賞品等各係による当日の大会運営を行う。
(5) 事業経費(決算額)	事業実施委託料 570,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会(11地区) 参加人数:96人(他、青梅市スポーツ推進委員協議会、日本綱引連盟公式審判員等、総勢約130人)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。 大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側: 事務局として、大会の周知、出場チームの募集等の広報、実行委員会や組み合わせ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会や出場チーム組合せ抽選会の会議の開催事務、必要物品や各種資材の調達等も円滑に行われている。また、大会運営については、スポーツ推進委員や綱引き連盟公式審判員、青少年対策各地区委員が当たることで、スムーズな進行となっている。</p>			
<p>行政側 大会前日の会場設営や当日の出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導について、行政側スタッフだけでなく、役員や実行委員の協力を得るとともに、昨年の反省をもとに準備マニュアル等を作成し情報共有を図り、概ねスムーズに進行することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 昨年の反省事項にもとづき、準備リストの用意、担当職員の配置、受付、庶務の役割分担など、検討・改善が行われ、その成果は見られている。一度にすべての問題点を改善することは難しいことから、次回開催に向けて引き続き、できることから順次改善に努め、より良い大会にしていきたい。</p>			
<p>行政側 引き続き、広く市民に事業の周知を行い参加者の拡大を図るとともに、各委員さんからご意見のあった今大会における反省点や過去からの改善要望等を踏まえ、参加者から喜ばれる大会として質そのものの向上に努めていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課景観係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6/5、10/29、2/26、3/18 場所： 青梅市民会館
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意識の高揚を図り、景観まちづくりの推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅駅周辺の景観まちづくりを推進するため、「青梅宿の景観を育む会」の市民団体と協働で、講演会の開催や機関誌(風景通信)の発行、先進地への視察を行い、青梅駅周辺地区内の景観まちづくりに対する取組みの普及啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、景観まちづくりについての講演会の開催(1回)等
(5) 事業経費(決算額)	景観形成助成金(景観まちづくり市民団体への助成)30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅宿の景観を育む会(会員15名) 参加人数： 各回10名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成17年度に、「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」を策定するにあたり、地区内の自治会や商店街の代表者および座談会の出席者で発足した「青梅宿の景観を育む会」と協働で景観まちづくりの啓発を行うこととなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他 その他の場合具体的に(計画の意思形成過程)
(6) 役割分担	市民側： 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側： 団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 建物所有者にもこの事業活動の理解が深まり、改築や補修に際し趣のある改修がされてきている。</p>			
<p>行政側 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知を進めた。また、景観まちづくりについての講演会の実施や機関誌(風景通信)を発行することで、景観まちづくりへの取組に対して共通認識を深めた。 協働で進めた結果、景観形成重要資源の修景について、所有者との手続きが円滑にできた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 後継者の育成や、工事・改修方策の事例をPRする必要がある。 今期は歴史的建造物の保存改修に例年以上の成果が認められた。地域の関心を一層推進していきたい。</p>			
<p>行政側 各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。また、活動の成果が目に見える形で残るように進める必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6月および9月の第1日曜日 場所： 大塚山いこいの森(大塚山公園隣接地)
2継続事業	
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	予定:年間参加人数 延べ240人 実績:年間参加人数 延べ192人(9月は、自治会行事と重複した。)
(4) 実施内容(実績値等)	大塚山いこいの森内の清掃、除草、下草刈り作業等
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 23,436円、食糧費 28,800円 合計 52,236円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区) 参加人数： 120人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等(植栽育成に必要な作業) 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 いこいの森を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保全することができた。また、市立第四小学校の校外学習の場として幅広く利用されている。 なお、植栽樹木の根付きも良く、育成状況も良好である。</p>			
<p>行政側 ボランティアと協働で清掃および下草刈り等の管理作業が実施でき、快適な生活環境の創出と市民の自然体験や学習の場として提供することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 関係団体等の行事等による参加人数や作業道具等の確保で難しい面がある。 また、組織として中心となる団体が定まっていない状況である。</p>			
<p>行政側 大塚山いこいの森ボランティアとの協働による管理により、自然体験および学習の場として良好な状態に保全されており樹木の生育状況も良好のため、今後、枝払い等の作業も発生することから、鋏や鋸等の作業道具を揃える必要が生じてくる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課 公園管理係
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎月第3土曜日(8月を除く。) 場所： 永山公園内ボランティア管理緑地ほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	公園・緑地内等において、下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間参加人数(予定延べ100人) ⇒ 実績:参加人数 延べ113人
(4) 実施内容(実績値等)	萌芽更新等を目的とした間伐、下草刈および枯損木伐採等
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金 210,000円 ・ 消耗品費 20,688円 ・ 食糧費 33,000円 保険料 10,350円 合計 274,038円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 緑地管理ボランティア 参加人数： 23人(登録人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的として制度を設置した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実施作業 行政側： 実施計画の策定

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 伐採した切株からの萌芽、実生から幼木も多数あり、毎月行っている管理作業により、新しい森の再生が図られている。また、永山公園だけでなく他の緑地管理についても協力ができ、協働のまちづくりに寄与できたものと自負している。</p>			
<p>行政側 永山公園の緑地管理ボランティア区域の管理作業はもとより、他の公園の管理作業についても協力をいただき適正な緑地・公園管理を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動範囲を拡大していくには、新規の会員を取り込む必要がある。</p>			
<p>行政側 会員の高齢化および登録者に対して参加率が硬直化(約半数)していることもあり、会員募集(随時)をかけて、若い世代の参加者を取り込む必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅の森保全プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課計画係
------	----------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成27年4月から平成28年3月 場所： 青梅の森
2継続事業	
(2) 事業の目的	貴重な野生生物の生息の場として保全し、市民と協働して維持管理を行い、未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気軽に利用できるレクリエーションの場として活用するため。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅の森について、理解を深めてもらうため。 (動植物の観察、ウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に体感してもらい活動への理解と環境等に対する意識の向上を図る。)
(4) 実施内容(実績値等)	原木きのこ栽培教室(18名)、ヨシ抜き、ヨシ刈、森林療法(30名) ※()内は一般参加者数
(5) 事業経費(決算額)	29,350円(報償費、消耗品)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	四多摩自然のオーブム、NPO法人育憐りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア 緑寸会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅の森いきものネットワーク、青梅さとやま散歩の会 参加人数:約50人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の森事業計画にもとづく運営組織を設置(8団体により構成:組織名=青梅の森保全プロジェクト)
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、運営 行政側： 事務局全般、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 青梅の森の普及啓発になった。			
行政側 協働による体験講座等を開催し、市民が参加することにより、「青梅の森」が自然と共存できる里山として身近に感じてもらえるとともに保全活動の必要性や関心も深まる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 行政側の負担を軽減するような仕組みが必要。 また、シンポジウム等の新たな企画も検討したい。			
行政側 ・体験講座等の事業内容、時期、頻度、募集方法を含め運営方法を検討する必要がある。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課
------	---------------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年6月1日～25日 場所:吹上しょうぶ公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	述べ活動人数 97.5人
(4) 実施内容(実績値等)	しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数 97.5人)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 4,948円 講師報償金 24,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数:26人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:ガイドの実施 行政側:講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民が参加することにより、より利用者への配慮が広がった。			
行政側			
来園者にガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
一部連絡体制が整わず、戸惑ったが各立場よりコミュニケーションを取りたい。			
行政側			
よりよい体制等について、引き続き協議していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林課 林務係
------	--------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月9日、7月11日、9月12日、12月5日、平成28年1月9日、3月12日(計6回) 場所:青梅の森 他
2継続事業	
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成と組織化を図り、適正な森林整備を行う。 また、平成22年度からは杉並区との間で協定を締結し、共同で実施することで講座受講者の拡大を図っている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間6回の講座開催。 講座受講者30人(青梅市15人、杉並区15人)×講座回数6回=180人
(4) 実施内容(実績値等)	講座は2年を1期として実施し、平成27年度は第7期の2年目として実施。 講座内容は、下刈り、間伐、道づくり、枝打ち、植栽等。
(5) 事業経費(決算額)	森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額815,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数: 毎回10人程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講座内容の決定、資材の準備、当日の実技指導 等 行政側: 講座受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 手入れが行届かない山林を何とかしなければならないと思うボランティア育成講座に参加し、森林作業体験をすることにより実感を高めることができ、また青梅の森の保育保全も進んだ。			
行政側 青梅林業研究グループには、森林施業に対する知識や技術を持ち合わせた者が多く在籍しており、本森林ボランティア育成講座以外にも多くの場で指導を行っているところから、委託先としてふさわしく、受講生からは親切、丁寧な指導には多くの感謝のことばが寄せられている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 森林に対する知識と実技をスキルアップするために、様々な手法を取り入れていく必要があり、今後も引き続きご指導いただきたい。またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。			
行政側 講座修了生を中心としたボランティア団体「森守会」が活動しているが、さらに多くの方に加入していただくことが求められる。また、継続した活動とするためには、現在比較的高齢の方に偏っている講座受講生の年齢分布をいかに広げるかが課題となっている。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室 指導係
------	------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:毎年度 場所:市立小中学校
	1単年度事業、2継続事業
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容(実績値等)	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 参加人数:市民 約400人(各学校合計)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:学校の依頼にもとづく支援 行政側:学校への活用奨励

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 学校の都合で日時が限定される。			
行政側 図書室整理などではなくてはならない存在となっている。(登録約400人)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2015～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成27年5月9日(土)、10日(日) 場所：釜の淵公園およびその周辺施設
1単年度事業、2継続事業	
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者・参加者 2,383人
(4) 実施内容(実績値等)	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、おはなし会、竹細工展示、手品、野点による抹茶接待、青梅だがしや楽校による体験イベント、木工クラブ、障がい者団体による飲食物販売。
(5) 事業経費(決算額)	110,056円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア、障がい者団体 参加人数：103人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議の事務局として
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：企画運営 行政側：事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 飲食物の販売があり、より良くなった。体験イベントも充実しており、全体として工夫がされていた。</p>			
<p>行政側 新緑祭全体の準備や片付けにも各団体の実行委員に協力してもらうことで、より協働が進んだ。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 さらなる集客のために、各団体の工夫と全体の工夫が継続的に必要。</p>			
<p>行政側 市民も一緒に行う作業の幅も増えてきて協働が進んでいると考える。実行委員会の運営もさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていくことが必要。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:①平成27年10月3日(土)、②平成28年1月16日(土)、平成28年3月12日(土) 場所:①青梅市民センター、②青梅市民会館、③市役所
2継続事業	
(2) 事業の目的	家庭教育の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年3回、その時々々の課題となっているテーマで講演会を実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	①メタボを予防！～健康な体を作る食生活と食卓～ ②子どもはいったい何を考えてるの？～子どもの気持ちに寄り添うハッピーな子育て～ ③叱ればいいのか？受け止めればいいのか？～子どもの感情を育てること～
(5) 事業経費(決算額)	①保育業務委託料8,670円・講師料26,000円 ②保育業務委託料8,670円・講師料26,000円 ③保育業務委託料14,580円・講師料26,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人青梅こども未来 参加人数:講演会各回20名前後
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育ての現場の声を反映した講演会とするため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 保護者への周知、講師等の情報提供、こどもの保育、当日の受付・手伝い 行政側: 周知、講師交渉、当日運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会状況に則した講師を挙げていくが、日程および講師料等の問題で実現できないケースがあり残念だった。何度も受講してみたい講師をリストアップし、直接交渉を繰り返した結果、良い講師を呼ぶことができた。 ・未就学児向けの講座では、託児なしで実施予定だったが、協働ということもあり託児をつけることを提案し働きかけた結果、託児付きの講座となり、より多くの親達の参加を促すことが出来た。 ・講師との直接交渉、会場の予約と会場設営、ポスター・チラシ作成等は行政側、チラシ配付及び宣伝と声かけ、託児(保育)等は当方と、それぞれの利点を活かした役割分担が行われ、講演内容も充実したものとなり、参加者から好評を得た。 <p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報等では周知が行き届かない乳幼児の子育て世代に周知することができた。 ・託児付きで実施するにより保護者が参加しやすい状況となった。 			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの参加者が集まるよう、保護者へのリサーチ、宣伝方法の工夫に力を入れる。 ・社会のニーズにあった講演が開催できるよう、早めに講師と交渉できる準備が必要。 <p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全回託児をつけることができたが、定員を超える応募があり受け入れができなかった。託児の需要に対応できる体制をつくるのが課題である。 			

協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年2月27日(土) 場所:総合体育館第2スポーツホール
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育て中の家族が楽しく過ごす場を提供し、乳幼児の知性・感性・社会性を育て人格形成を図るとともに家族の絆を深めるきっかけ作り
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民のニーズに合わせた乳幼児向け体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者78人
(5) 事業経費(決算額)	45,900円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅こども未来 参加人数:20人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画、当日の指導 行政側:周知、申込み受付、会場確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 社会教育課との協働事業だったので、広報掲載や開催場所との連絡、申し込みや受付等がスムーズに出来た。			
行政側 団体の企画、指導により、市民のニーズに合った乳幼児向けイベントを行う事が出来た。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民のニーズに合ったイベントを行うため、情報交換の場を多く持ち、検討していく事が必要。			
行政側 他の教室に参加したことのない人にも申し込んでもらうため、募集方法について、工夫する必要がある。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	中央図書館管理課
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年5月23日 場所:中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「リーダーズあおうめ」 参加人数:11人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側:企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。			
行政側			
朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
読みたい希望者、聞きたい希望者が共に増加傾向にあり、実施時間や会場の設営など考慮する必要がある。			
行政側			
この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとっても良い事業であるようにしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	中央図書館管理課
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月1日～平成28年3月27日 場所:中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備(整架、配架、資料清掃、資料修理)
(4) 実施内容(実績値等)	整架ボランティアにより、中央図書館の納本および書架の整理を行っている。 また、当年度より、軽易な資料修理・館内整理日における資料清掃なども開始した。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:図書館整架ボランティア登録者 参加人数:延べ 754人(登録者43人、年間活動日数245日)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:図書の本の整架・清掃、本の修理 行政側:ボランティアに対する場の提供

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。			
行政側			
ボランティアの受け入れを通じて、より利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、業務負担の低減にもつながった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
図書館側とより活発な意見交換をすることにより、より効率的な作業を行えるようにする。また、新旧ボランティアの交流を行い、より情報共有に努め、誰もが自信をもって作業にあたれるようにする。			
行政側			
ボランティア側の疑問点等を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。さらに自立的活動ができるようサポートする。(わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	中央図書館管理課
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日 場所:中央図書館、梅郷図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上
(4) 実施内容(実績値等)	おはなし会 60回、おはなし学習会(中級) 10回、おはなし学習会(上級) 9回、おはなし勉強会 3回、 絵本のべんきょう会 6回、
(5) 事業経費(決算額)	36,000円(おはなし学習会講師報償金 6,000円×6回) 24,000円(絵本のべんきょう会講師報奨金 6,000円×4回)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、個人登録ボランティア 参加人数:延べ 33人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側:おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 新しい管理下のもとでの不安やこれからのことを事前に話し合う機会があり、いろいろ話せたこと。予定していたおはなし会を滞りなくできたことが良かった。</p>			
<p>行政側 今後のおはなしかいも今までと変わらずに続けることができるよう協議し、子ども読書活動の推進が図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 おはなし会の予定などは変わらないが、新しいスタッフでまだ慣れない点もあると思う。コミュニケーションを深め、おはなし会が楽しくできるとよいと思う。</p>			
<p>行政側 28年度から指定管理者が事業を行うようになるが、今までと変わらず参加者にとって良い事業であるようにしていきたい。</p>			

市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	自由	青梅市の湧水調査（基礎調査 &デジタルマップ作成）	特定非営利活動法人 青梅まちづくりネット ワーク	環境政策課
2	3	親子が木と共生していく木育 事業	民立おうめ楽校	農林課、子ども 家庭支援課
3	自由	青梅市高次脳機能障害者グル ープ認知訓練午後プログラム	なんてんの会	障がい者福祉 課
4	1	ママ（女性）が輝く社会の実 現を目指そう応援プロジェク ト	m a m a n i c o t t o(ママニコット)	企画政策課、子 ども家庭支援 課、社会教育 課、スポーツ推 進課、健康課
5	3	木育プログラム「森の恵みの 子育て・子育て！」	特定非営利活動法人 青梅こども未来	子ども家庭支 援課・農林課

【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

【行政テーマ提案】

市が設定した次のテーマについて、事業を提案するもの

1 女性の活動推進支援事業

2 地産地消の推進事業

3 木育の推進事業

事業報告書

事業名 青梅の湧水調査（基礎調査&デジタルデータマップ作成）



1 実施団体

特定非営利活動法人 青梅まちづくりネットワーク

2 担当課

環境政策課

3 実施時期

平成27年7月～平成28年3月

4 参加者

大倉十彌也（青梅まちづくりネットワーク副理事長）

濱田光一（おうめ環境市民会議副代表）

渡邊勇（青梅・多摩川水辺のフォーラム代表）

中田由和（NPO SuperMap 倶楽部理事）

井上務（東京ホテル会議副議長）

吉澤武司（青梅市役所環境政策課環境対策係長）

伊藤慎二郎（青梅市役所／※個人参加）

ほか

5 実施場所

青梅市内各所

6 事業の目的

東京都環境局発行の『～東京の湧水～ 湧水マップ』（平成 25 年）もとに、青梅市内の「湧水」の現状を調査・再確認し、デジタルデータ化した上でデジタルマップの形にする。将来的に青梅の水資源全般を活用するための一つの基礎資料となるものを作成する。

7 役割分担

・団体の役割

現地へ赴いての調査、デジタルデータの整理、デジタルマップの作成、報告会の企画・実施等の作業。

・担当課の役割

データの調査・収集、および、デジタルマップ作成作業に対する各種支援、報告会実施に際しての会場提供や広報活動、ほか。また、将来的には、青梅の水資源全般（河川、各地の小川や沢、井戸など）に関する包括的な情報収集、調査の実施、各方面での活用へとつなげていくこと。

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

豊富と言われる青梅の水資源に関し、今回は「湧水」という限られた種類のものではあるが、まずは、水を資源として捉え、活用していくための基礎資料の一つが作成できた。

青梅の水資源はまだ、“資源”として活用されていないのが現状であり、それが地域課題である。よって、地域課題の解決はこれからのことで、現時点では今回の事業の効果の測定はできない。

本資料の作成により、青梅の水資源の活用に関する提案ができる形は整えられた。

9 目標達成

事業の目標：

『～東京の湧水～ 湧水マップ』に掲載される、青梅市内 24ヶ所

の湧水の現状を調査すること。その他、新たな情報があればリストに加えること。収集した情報をまとめ、デジタルデータ化し、マップの形にすること。報告会を実施すること。また、デジタルマップ情報を何らかの形で市民に提供できるようにすること。

目標の達成具合：

『～東京の湧水～ 湧水マップ』に掲載の市内24ヶ所の湧水の現状はすべて調査した。その他、独自の情報収集により、およそ60ヶ所の現状を確認し、必要に応じてリストに加えた。

平成28年3月に報告会を実施。その時点では49ヶ所をリストアップしている。

調査とデータ収集は平成28年3月までに終了しているものの、一般へ向けての正式版のリリースは5月頃になる見込みである。これは、調査段階にて次々と重要な湧水が追加され、予定していた調査期間が延長され、データの取りまとめが遅れたためである。また、正式版の確定に先立ち、私有地内にある湧水に関し、情報公開の許可を得るなどの作業も行っておく必要があると考えている。

さらには、市民に対してどのような形で情報提供していくかの検討が今後課題として残されている。

10 事業の実施内容

- ・平成27年7月以降、11回の公式調査が行われた。その他、個人による単独調査も行われた。

- ・平成28年3月21日、青梅市役所において「青梅市の湧水調査&デジタルマップ作成事業報告会」が行われた。『青梅湧水10選』も公表。

- ・平成28年5月頃に、正式版の『調査報告書』の公開、および、パソコン用ソフトウェア「スーパー・マップ・ビューワー」を利用して表示する『青梅の湧水マップ』データの公開を予定している。また、当初の事業計画にはなかったが、インターネット上にてグーグルマップの仕組みを利用した『青梅の湧水マップ』の公開も予定している。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	2	2
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	2
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	3	3
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・デジタルデータマップをどのような形で市民に提供していくかが未定である。

- ・今回とりまとめたデータを基にして、次の展開をどのようにしていくかを考える場が設置できるかどうか、未定である。特に、青梅市役所内の各課に周知し、青梅の水資源を、資源として活用する具体案を出してもらうかについての戦略等は、まだ検討されていない。観光、防災、自然保護、教育、その他、さまざまな面での活用が望まれる。

13 その他

事業名 親子が木と共生していく木育事業



1 実施団体

若者のやる気と地域課題をマッチングして事業化するまちづくり団体

国立おうめ楽校（うめ校） <http://umekou.net/>

※うめ校の中でも、子どもたちに環境教育の学びの場を提供するプロジェクト「おうめこどもエコクラブ」 <http://umekou.net/Ecoclub>

を中心に、今回の市民提案協働事業を実施。

2 担当課

農林課、子ども家庭支援課

3 実施時期

2015年6月8日（水）～2016年3月31日（日）

4 参加者

講座名	人数
＜夏休み＞子どもが青梅の自然や木と向き合う講座を2回実施 ・ 幼児（3歳～未就学児）対象	
「山の現実をみよう！木で工作し、暮らしにいかそう！ツアー」 ・ 小学生対象	16名
「林業家さんの仕事見学ツアー＆まちのベンチづくり」	13名
＜秋＞妊婦さん対象 「産まれてくる我が子が触れるはじめてのおもちゃを木でつくる」	19名
＜冬＞木だけじゃない身近な自然と触れ合う講座を2回実施	

・ 幼児～小学生対象「青梅の自然を感じて“竹筒の正月飾り”」	15名
・ 小学生～大人対象「木育での“こけ玉”教室開催！！」	28名
＜春＞親子を対象に木のおもちゃを囲みながら、おもちゃ談議 次年度ファーストタイププロジェクトに向けてママから意見を聞く 「楽しみながら青梅の木育について考えよう！」	19組 28名

5 実施場所

御岳交流センター、中島林業所有の山・成木の家、市役所、JA西東京かすみ直売センター、風の子太陽の子広場管理棟集会室

6 事業の目的

青梅の森林を守るためには、利用促進が必要ですが、次世代を担う若い親と子どもたちの周りでは、利便性や経済効率の追求によって、木や緑に囲まれたゆとりある空間や社会性を育む場に触れる機会が失われようとしています。

子どもの頃から木を身近に使っていくことは、人と森や木との関わりの大切さを考えられる豊かな心を育てます。このように地域社会全体が協働して取組みを進めていくことで、人と人とのつながりや地域経済の活性化を図れる可能性を持っています。親子を中心とした講座を実施しながら今後の展開を探っていきます。

7 役割分担

- ・ 団体の役割
 - ・ 事業の運営
 - ・ 団体が運営している「おうめこどもエコクラブ」との協力した講座の展開
 - ・ 次年度事業展開に向けた会の運営
- ・ 担当課の役割
 - ・ 会場の確保
 - ・ 事業の広報および周知を行う
 - ・ 講座の運営支援
 - ・ 次年度以降の協力体制の検討

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

自団体は、若者のやる気と地域課題をマッチングさせプロジェクト化をはかり、いろいろなプロジェクトを運営しております。その中に同協働事業で、事業の初動を応援していただきました「おうめこどもエコクラブ」プロジェクトがあります。このプロジェクトは現在会員60名の組織になり、今年度5年目を迎えます。エコクラブには特に環境問題に興味・関心のあるお子さんが多く集まります。この輪は人づてに広がっていますが、会員を中心に青梅市の環境教育の発信ができると感じています。よって、今回木育を広げていく上でも重要な役割を果たすと確信しております。

また、プロジェクト担当の松田は環境教育指導者として環境教育の授業コーディネーターを仕事にしております。そのスキルを今回のプロジェクトでも活かせると確信しております。起業家・若者・親子世代のネットワークのある自団体だからこそ、青梅市の環境教育しいては木育の普及に貢献できると思い応募しました。

結果、講座の実施とニーズの把握、木育の周知と今後の展望を検討することができました。

9 目標達成

- ・事業の目標：木の道具を使うことや生活空間に木を増やすこと、木や森に積極的に関わるなど暮らしに根付いた事業や、特に子どもに対して、自然の大切さと青梅の大切さと青梅市への愛着を育むための事業を実施します。

- ・目標の達成具合：

達成

10 事業の実施内容

8月講座①：御岳ガイドで青梅の自然の良さを知る。森の手入れの仕方も見る。青梅の木でおもちゃを作り、持ち帰ることで、愛着を持ってもらう。



12月：自分たちの生活に自然を感じる時間を入れられるように、行事に合わせた「正月飾り作り」講座を実施。梅結びをして、青梅の梅の復興と日本の伝統を感じました。



2月：身近な植物「苔」——知っているようで何者か知らない人が多い一方、なぜか苔玉はすごく人気！苔について知り、自然を好きに！また苔玉を置く台を青梅の木に。青梅の木についても併せて知ってもらう機会に。



3月：最後のまとめとして、より青梅の木育を育てていくためにはどのようなことを進めていくのがいいかの話し合いを地域のママたちを集めて行いました。



<講師陣>

- ・土屋 一昭（森の演出家・テレビ出演多数）
<http://www.tokynomountain.jp/birdtime/tsuchiya.html>
- ・中島 大輔（青梅の若手林業家・活動は多岐）
- ・(有)榎戸園（青梅の造園業・講師も多数）
- ・mokumukuworks(おもちゃを制作している青梅のママが活躍する会社)

- ・おもちゃインストラクター 秋元和美

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

●農林課

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

今回、講座の対象を変えて、どのの方々により伝えていくことが「木育」の学びにつながるのか？また、木に特化するだけでなく、どのように伝えていけば青梅の自然に目を向けてもらい、後世に伝えていくことができるかも併せて検証しました。

結果、

- ・妊婦やママの講座時に、祖母の方々から、孫のためにおもちゃをつくりたいので参加をしてよいか
- ・ママは自然に興味があるが、小さい子を連れて自然の中に頻度高くいくのはハードルが高いこと
- ・幼児・小学生は親に興味と子どもの興味が合致し、休日のタイミングがあれば参加できること
- ・苔玉の参加者は今までの講座の中で一番多く、より身近な自然から入り、青梅の自然に目を向けることが視点としてはとっつきやすいのではないかと

など、様々なことが分かりました。

また、3月の座談会では青梅で生まれた子向けにどんなおもちゃがもらえると嬉しいかという意見では、

- ・自分たちでひと手間加えて完成できるおもちゃ
- ・市役所に焼きごてを置いてもらい、そこで子どもの名前をいれることができる
- ・もちろん青梅の木であることが1番重要
- ・青梅の木や自然、木育のことを子どもたちに伝えてあげられる本が一緒にあるといい
- ・食育も併せて、木の食器の方がいい
- ・配布ではなく、講座で実施してほしい
- ・イベントに行くのはハードルが高いので、もらえてすぐ遊べるものがない など

こちらも様々な意見を頂戴しました。

今回この助成金をいただいた経緯としては、

当団体で環境政策課さんと協働で実施している「おうめこどもエコクラブ」にあります。子どもたちに青梅の自然を伝える講座を数多く実施してきましたが、単発の講座が多く、青梅の自然の良さを一時的には伝えることはできますが、もっとより深く学びたいという子に対してどのようにしていくのがいいかといったことがありました。そして、青梅の自然を考えたときに「木」に着目。林業衰退や梅の木のウィルスなど、身近で様々な問題が起きていることを子どもたちに知ってもらい、青梅の自然を大事していく行動を子どものときから親子で考えてもらえる機会をもっとつくりたいという思いから今回の協働事業につながりました。今回事業を実施して、子どもたちが学ぶことの大切さに加えて、実際に木を使っていくことの重要さを改めて感じました。日本各地に竹林の放置が問題で、土砂崩れが起きやすくなっている問題同様に、木でも同じことがいえます。昔は竹も竹かごにしたりと使う機会がありましたが、木も同様に現代の暮らしには密着しているとはいえません。

より木を使っていくためには、「循環」させていくことが重要です。

木を切る人、製材する人、加工する人、使う人、そしてこれが大事だと思える人を育てることを今後も継続的に実施していくことが重要だと思いま

す。

例えば、生まれた子のためにおもちゃを配布しようと思うと、木をそんなに使用しないですが、青梅市では約900人の子どもが産まれていることから加工する人がすごく重要になります。そこまで広い視野を持ち、木育をとらえ、今の現実と向き合いながら、この事業を進めていくことが青梅の木の循環につながり、人の想いの循環につながると思います。

この輪が続くように、当団体としても少しでも活動できればと思います。今回はおうめこどもエコクラブのメンバーの学びにもつながり、併せて「木育」の第一歩を踏む機会を頂戴し、本当にありがとうございました。

最後になりますが、

農林課の皆さんには全体の支援を頂戴し感謝しております。また、子ども家庭支援課さんには農林課を通して子どもたちへの広報支援を頂戴し本当にありがとうございました。

13 その他

今後の活動については、今回協働事業で同じ「木育」をテーマに事業を実施されていたNPO法人青梅こども未来さん含め、有志の方々とともに、「森育おうめ」として活動を継続させていこうということになりました。どのようにしていくことが市民を巻き込みながら、青梅の木の未来を考えながら楽しく行動していくことができるのか、みんなで考えていきたいと思っています。

事業名

青梅市高次脳機能障害者グループ認知訓練 午後プログラム



1 実施団体

なんてんの会

2 担当課

障がい者福祉課

3 実施時期

平成 27 年 6 月～平成 28 年 3 月

4 参加者

利用者 5 名 ヘルパー 5 名

5 実施場所

青梅市障がい者サポートセンター

6 事業の目的

高次脳機能障害者に対し、スポーツや制作活動を通し肉体的な機能改善とともにグループの特性を生かした社会訓練を行ない、地域生活へのステップアップを援助する。

高次脳機能障害者の家族のレスパイト。

7 役割分担

・団体の役割

- ① 午後プログラムの企画・運営。事業の記録。
- ② 西多摩高次脳機能障害生活支援員を中心とした家族をヘルパーとして派遣

・担当課の役割

- ① 青梅市障がい者サポートセンターの施設・備品利用。
- ② 講師として青梅市障がい者サポートセンターの職員を2回派遣。

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

医療の場面ではリハビリは原則6か月で終了する。また、認知訓練はセラピストと患者1対1で行なうことしか認められない。このように制度上困難ではあるが、高次脳機能障害の認知回復に大きな効果のあるとして要望の強いグループ認知訓練・社会訓練が実現した。

その結果、社会復帰や職場定着が難しいと言われる高次脳機能障害であるが、今年度利用者5名の内2人が一般就労、3人がB型就労支援に通所できている。

9 目標達成

事業の目標：

- ① 訓練対象者6人～7人。
- ② 年間6回、専門講師による指導。
- ③ ヘルパー確保の安定化。

目標の達成具合：

- ① 訓練対象者5人（予定者2人が諸事情により辞退）
- ② 予定通り実施。
- ③ ヘルパー2人増員。

10 事業の実施内容

別紙参照

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ① ヘルパーを家族が行なうばかりでなく、高次脳機能障害に関心のある市民も関わることにより障害に対する理解が深まり、適切なケアを行なえる人材が増えるのではないか。
- ② ヘルパーの勉強会を行いたい。
- ③ 利用者に合わせてプログラムの内容を変えていくことも必要。

13 その他

利用者・家族から事業の継続を強く求められている。また、何人か新規利用者の候補も上がっている。

そうした中、来年度も事業内容の充実・拡大を目指していきたいと思う。

事業報告書

事業名 ママ（女性）が輝く社会の実現を目指そう応援プロジェクト



1 実施団体

ママが地域で輝く場づくりを目指す団体 mamanicotto（ままにこっと）

2 担当課

企画政策課、子ども家庭支援課、社会教育課、スポーツ推進課、健康課、市民活動推進課（東青梅市民センターを含む）

3 実施時期

2015年6月8日（水）～2016年3月31日（日）

4 参加者 約744名

実施月	協働課	講座名	人数
7月	社会教育課	スターバックスの美味しいコーヒーの淹れ方&青梅のチョコレート工場のチョコをちょこっと食べよう	14名
8月	スポーツ推進課	夏だ！ベビーとハワイアンリトミック教室♪	14組 28名
9月	子ども家庭支援課	保育園・幼稚園ってどんなところ？市の子育て新支援制度って？	17組 34名
9月	市民活動推進課	キッズ英語&オリジナル絵本作り	11組 24名
11月	子ども家庭支援課	ベビースキンケア	6名
12月	健康課	幼児食講座～青梅の野菜を使って、簡単お祝いメニュー	11名

		ユーをつくって食べよう	
1月	企画政策課	ママが働くはじめての0.5歩	17名
3月	全課	ママが輝くフェス～mamaフェス	600名

※5月おうめ健康まつり、11月アートフェスティバルも協力

5 実施場所

市民センター（東青梅・今井）、青梅市総合体育館、市役所

6 事業の目的

「子育てを楽しみ、自分の趣味も続けたい」

「家族の時間を大切にしたいし、仕事もしたい」

「家事もちゃんとこなしたいけど、たまにはほっと息抜きしたい」

「家庭の中のママとしてだけでなく、女性として社会で活躍したい」

女性はママになり、いろいろな悩みを抱えながら奮闘しています。

そんなママに寄り添い、ママの生活が輝き家族も笑顔になるお手伝いをすることで、地域のつながりの中で活かしあって生きていく地域の輪ができます。そんな社会の実現を目指します。

ママや家族が成長できる機会を生み出し続けるために、仲間と”であい”、好きなことを”まなび”、地域で”はたらく”場をつくっていけるような機会を継続的につくっていく事業を実施します。

7 役割分担

- 団体の役割
 - 事業の実施
 - 事業の継続運営およびママ（女性）の居場所確立、自立応援を行う
- 担当課の役割
 - 講座の運営支援
 - 事業の広報および周知
 - 会場の確保
 - 講座の選定および派遣

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

自団体は現在5名の若いママで構成されていますが、それぞれ特技・スキルが違います。特技・スキルはパソコン、講座講師、人材ネットワーク、地域活動・NPO知識など多岐にわたります。このようなママ（女性）の特技・スキルを青梅市のためにまた同じママ（女性）のために活用し貢献したいと思って、日々活動しております。

今回、私たちのスキルを活かして、ママ（女性）のくらしと仕事に寄り添いながら、ママ（女性）の居場所また活躍できる場づくりを目指す第一歩をまずは団体として踏めたのではないかと考えております。また参加者のニーズを把握して、何が求められているのかを知る機会となり、参加者のママ（女性）たちにまずは一歩、寄り添うことができたのではないかと評価しています。最後に、今年度の助成金募集要項の中に行政テーマで青梅市として「女性の活動推進支援事業」に積極的に取り組みたいとありましたが、この内容にも貢献できたのではないかと考えております。

9 目標達成

事業の目標：

- ・ 団体としての組織化
- ・ 多様な講座を実施することで、ママ（女性）のニーズがどこにあるかを知る
- ・ ママ（女性）が出会い、学ぶ場をつくり、その場で自分の今・今後と向き合ってもらえる機会をつくる

目標の達成具合：達成

10 事業の実施内容



7月 スターバックス

地元のお店とコラボ。お店の方もママにより利用してほしいし、ママの声に寄り添いたいという想いもあり、実現！



8月 ハワイアンリトミック

ままにこっとメンバーが講師になり、講座を実施。まずは自分たちがやってみる。そして、ママたちが講師へ。



9月 英語講座

8月講座と組み合わせて実施したことがある講座。今回は英語は別で深く学びたいという希望に応じて実施。



11月 スキンケア

ママで「やりたい！」という先生とコラボ！
子どもの肌のことで悩んでいる方に寄り添えたのでは？
中には、自分でこのような仕事をしたいというママもいた！

1月 働く講座

企画政策課・商工会などと何度もママの仕事のしくみ作りから話し合いました。
このような講座がまずはママのスタートになるのでは？と開催。



9月 保育園・幼稚園を知る

私たちがいないから困ると思っていたのと同じく、ママたちから希望が！今後続いていく必要のある講座。



12月 幼児食

食のことは子どもとはかせない。
市で大人気の栄養士江川さんと実施。
交流の場としても◎



3月 mama フェス

全課に協力していただき、開催できた mama フェス。この日をきっかけに動き始めた出展者・参加者のママが多いと聞きます。少しでも一歩を踏める機会になり、みんなが集まる場になったら嬉しい限りです。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

● 社会教育課

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	3
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
(8) 設定した目標が達成された	3	3
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

● スポーツ推進課

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4

(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

●子ども家庭支援課

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	4
(8)設定した目標が達成された	3	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

●市民活動推進課（東青梅市民センターを含む）

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	3	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3

(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

●健康課

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	4	3
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
(7)事業実施は円滑になされた	2	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	1

●企画政策課

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

●全体の感想として

・参加者のアンケートは全体的に好評価で、他にもこういう講座をやってほしいという希望がありました。

・ママが働くという意味で、講座などに参加してもらった方で趣味や特技のある方に講師をしてもらうというところまでは辿り着けませんでした（習熟度の把握や判断も難しいところ）。今回は託児スタッフとして参加してもらったり、ママフェスでも主催者側として関わってもらえることはできました。

・課題として、参加費が市からの補助があるからママたちも気軽に参加しやすい金額に設定できるが、将来的にそれに頼らない場合、価格設定が難しいこと（参加者の金銭感覚はかなり厳しい）、広報の面で、広報おうめでの周知の力が絶大だったため、今後の広報も課題。

●新たな提案も！

青梅市の問題で、高齢化によりお年寄りが孤立しているので、地域のお年寄りや若いママや子どもたちを交流できないかという意見を知り合いの民生委員や働く講座参加のママさんからいただきました。

ママ（女性）の問題以外の地域課題（この場合は高齢化）とのマッチングも今後考えていくことが団体運営をしていく上では必要な事項だと感じました。自分たちだけでなく、今後も青梅市や周りの協力者の方々と協力しながら地域の課題解決の一端を担える団体でありたいと思いました。

●最後の集大成 ママが輝くフェス～mama フェス

集客が600名とまずはママたちが集う場として成功できたと思っています。ママ目線で会場設営ができたので、たくさんの方から「子連れでも楽しめた」「今年もやってほしい」「自分も青梅のママたちのためになにかイベントを開こうと決めた」などとの意見をいただきました。

特技を披露したママ（女性）の出展者からの意見としては、

自分の好きな事で報酬（売り上げや謝礼、参加者の笑顔）を貰えて、参加

できてとても嬉しかった、自信に繋がった、意欲が出たという意見。

全国各地で活躍している体育館講座の講師からは、ママたちの力でこの規模のイベントを開催し、実際に集客でき、満足してもらっているということは本当に素晴らしいと思います。ママ（女性）の力に本当に感動しましたというお褒めの声をいただきました。

反省点としては、

- ・ 午後は昼寝の時間のため、集客が少なかったこと
- ・ 小学生向けの講座は、小学生は自分で参加の意思を親に伝えられたり、土日は習い事があったりすることからあまり集客出来なかったこと
- ・ 実行委員会などママフェス開催の段取りをどうしていくか今後開催するのであれば検討する必要があること

今後開催する場合は、

今回の実績を元にできるので、今回程の負担は無いが、やはり市の方の人手や広報、お金の支援が必要。ブース数は少し増やせそうだが、各ブースの運営方法や個人情報管理など、今後本当に「働く」につなげていく上でもこういった面での打ち合わせや指導ももっと必要だと感じました。

● 今後について

団体メンバーもママであるので、私たちも妊娠・出産・家庭・仕事のバランスがあり、無理なく活動できればと思っています。今年1年協働事業をさせていただき、事業の課題や今後について考えられる素晴らしい機会となりました。青梅市の方を含め、いろいろな方からいただいた意見をもとに、今後も皆さんと協力しながら、下記4つの事業の横の連携もとりながら活動していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

- ・ すてきな人発掘プロジェクト：ママ同士のつながりを持てるよう交流会や講演会を開催。つながりから、すてきな人を発掘しママが特技を活かせる場を提供。講師・参加者として講座に参加するママがいて、自己実現をはかる。

- ・サークル支援プロジェクト：市のサークル制度を活用し、すてきな人発掘プロジェクトの講座で継続的に講座を実施していくママをサークル支援していく。
- ・癒しプロジェクト：育児疲れやママになり環境や身体が変化したストレスを改善できるリラックスした空間を提供する。
- ・地域デザインプロジェクト：地域情報やママとして働くとはどのようなかたちがいいのかなどママが必要な情報を“見える化”していく。

13 その他

- ・HP、facebook ページを作成しました。ママ（女性）たちに必要な子育て情報などを発信しています。

<http://mamanicotto.jimdo.com/>

<https://www.facebook.com/mamanicotto/>

- ・講座チラシや広報おうめで、団体の周知がたくさんできました。チラシを作成できるメンバーがいることから、他団体・おうめ創業支援センター「Begin!」などからもデザインの面でお声かけがあり、今後、今までの青梅にない「デザイン」というアプローチも可能かと思っています。

- ・中間報告時に、スポーツ推進課からスポーツ教室講座・イベントの企画運営について、青梅市単独では出来ない「いまの市民のニーズ」に合わせたものであり、その結果、市民の方から大変好評を得ていると評価をいただきました。今後もこのような講座・イベントを継続的に提供するためにスポーツ推進課として文部科学省およ

び東京都（オリンピック・パラリンピック準備局）の支援している制度である「総合型地域スポーツクラブ」という仕組みを活用し、「地域スポーツ文化交流クラブままにこっと」として継続的な支援及び市民協働を図っていきたいというお話しを頂戴しました。そして、2016年度から正式にクラブとして市民協働事業を継続していくことになりました。また広報おうめやHPなどで周知をしていきますので、施策連動としての応援を宜しくお願いいたします。

※クラブ設立日、平成 27 年 12 月 25 日付（東京都届出書受領）

ママ（女性）たちが学び、集え、働く一歩を考えられるような場を提供できるようにこれからも頑張ります！！

事業名 木育プログラム「森の恵みの子育ち・子育て！」



1 実施団体

特定非営利活動法人青梅こども未来

2 担当課

農林課・子ども家庭支援課

3 実施時期

4 参加者

5 実施場所

タイトル	開催日時	場所	参加者数
世界に一つ！ 森のかけらの 【お守り】作り	2015年 8月23日（日） 13:30～15:30	永山ふれあいセンター 研修室・創作室	子ども 15名 大人 9名 計 24名
森の恵みで 積み木を作ろう！	2015年 12月5日（土） 13:30～15:30	新町市民センター 第1・2会議室	子ども 11名 大人 20名 計 31名
第1回 ・木育寺子屋 ・赤ちゃん 木育おもちゃ広場	2015年 9月3日（木） 10:30～12:30	子育て支援センター	子ども 30名 大人 29名 計 59名

第2回 ・木育寺子屋 ・赤ちゃん 木育おもちゃ広場	第2回 2015年 11月5日(木) 10:30~12:30	子育て支援センター	子ども 30名 大人 26名 計 56名
第3回 ・木育寺子屋 ・赤ちゃん 木育おもちゃ広場	第3回 2016年 1月21日(木) 10:30~12:30	東青梅市民センター 和室	子ども 16名 大人 14名 計 30名
上記合計			子ども 102名 大人 98名 総計 200名

6 事業の目的

デジタル機器が生活の必需品となった現代社会におけるコミュニケーション不足が懸念される中、円滑な人間関係の構築が困難になる等、子どもの健全な成長が脅かされる危険性が出てきている。このような社会状況の中で大切にしたいのが《自然と人ともに触れる環境づくり》である。

青梅市は市の面積の60%が森林で自然に恵まれた立地にあることから、身近にある木とふれあい・木とに学び・木と生きる《木育》プログラムを通して、豊かな自然によって育まれる命の素晴らしさを知り、木の温もりや愛おしさを感じながら、子ども達の五感を多様に育むことを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割

担当人員（講師・スタッフ）の確保 広報活動 材料の準備
会場準備 等

・担当課の役割

会場予約 広報おうめへの告知・募集記事掲載 募集受付
関係事業者への取次ぎ
開催時（初回）、参加者への挨拶（協働開催の主旨等の説明） 等

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

日本や青梅の森林環境について学習し意識を持つ事で、自然環境への関心を高める事に繋がった。身近な自然（青梅の森）に興味を持ち、暮らしの中で《木とのつながりを感じる力》を育むことができた。

実際に木に触れて作品を作ったり木のおもちゃで遊ぶ事により、モノを大切に作る心を育みながら、木の持つ心地よさを五感で感じ木の魅力を再確認する事が出来た。

また、木のおもちゃ一つでいくつもの遊び方があることを知る事で、子どもと一緒に遊んでみようと言う親の気持ちを育て、子育てが楽しくなるという効果があった。

9 目標達成

事業の目標：

木にふれあい、自然と向かい合うことで、生きる力を育む

目標の達成具合

- * 「木で作ること」を通して木で作った物に愛着を持ち大切に作る心を育めた。
- * 指を使い、音を聴き、匂いを嗅ぎ、五感を総動員して木に向かい表現することを通して創造力を育むことができた。
- * 一つのモノづくりにじっくり取り組むことで、根気が育ち達成感を得ることが出来た。それは自信へと繋がり新たな課題に挑戦する力となった。

10 事業の実施内容

- ① 「世界に一つ！森のかけらの【お守り】作り」
- ② 「森の恵みで積み木を作ろう！」
- ③ 「木育寺子屋・赤ちゃんの木育おもちゃ広場」

* 詳細については別紙「実施報告書」参照

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課 (農林課)	担当課 (子ども家庭 支援課)
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	3	3
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3	3
(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3	3
(4) 協働相手は適切だった	4	3	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	3	4
(8) 設定した目標が達成された	4	3	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

* 広報活動について、市報に掲載する際「市民提案協働事業（農林課・子ども家庭支援課との共同開催）」であることの明記及び詳細内容（写真・イラスト含む）を事業ごとに随時記載して頂きたかった。

* 広報の手段として、市報やチラシ掲示の他にメール配信等検討の余地があったように思う。

* 当日の参加者名簿は、開始30分前までに整える必要があると思う。
行政との速やかな業務連携に課題が残った。

13 その他

本事業開催にあたり、協働開催の農林課林務係、子ども家庭支援課、市民活動推進課に大変お世話になりました。

ありがとうございました。

